

加古川市

# 東沢古墳群・東沢中遺跡

— (主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成23(2011)年3月

兵庫県教育委員会

加古川市

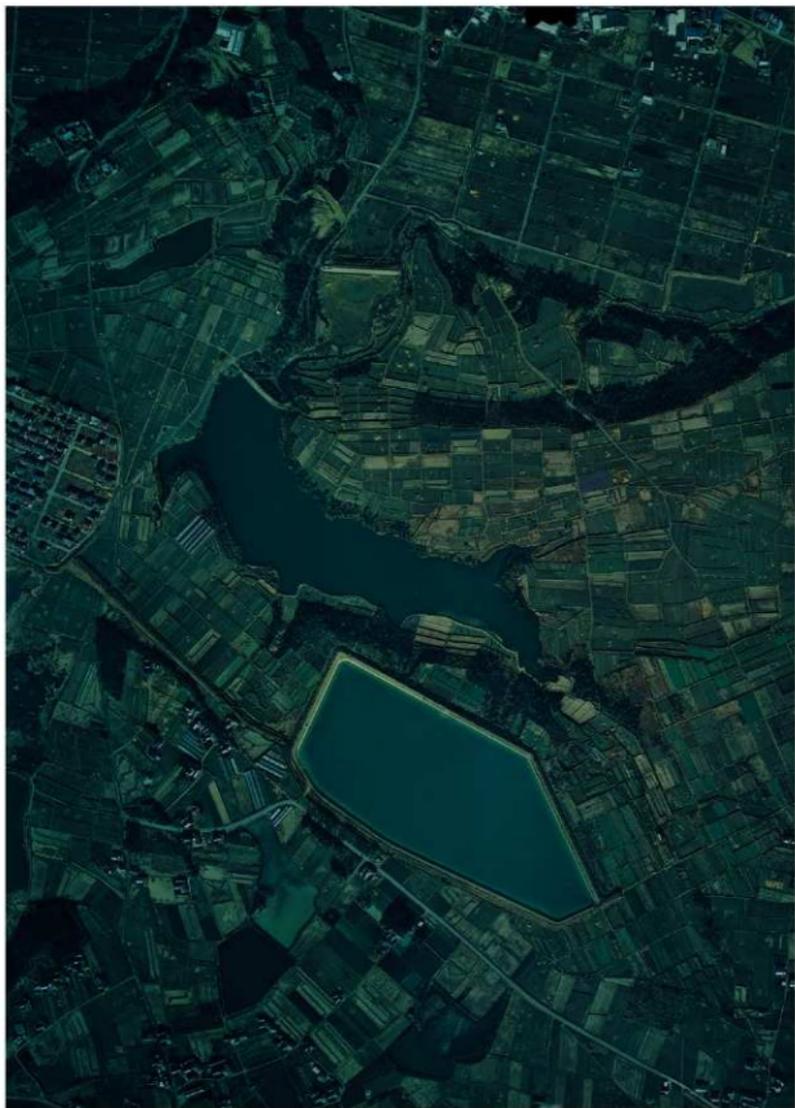
# 東沢古墳群(2号墳3号墳)・東沢中遺跡

— (主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成23(2011)年3月

兵庫県教育委員会



調査区 航空写真



調査地点 遠景（南西から）



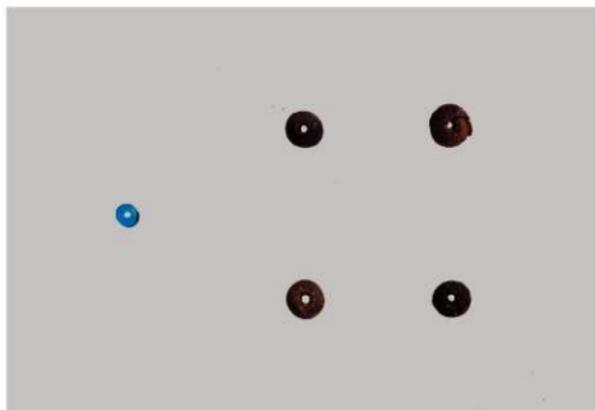
調査地点 近景（南から）



東沢2号墳(右)・3号墳(左)(南から)



東沢中遺跡(南から)



東沢2号墳 出土玉類



同 出土耳環



同 出土鉄製品

# 例 言

1. 本書は、加古川八幡町上西条に所在する、東沢古墳群 2 号墳・3 号墳及び東沢中遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴うものである。兵庫県東播磨県民局 加古川土木事務所の委託を受け、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が平成 17 年度に本発掘調査を実施した。
3. 遺構実測は、全体を 1/50 のスケールによる航空写真測量をサンヨーナイスコーポレイション(株)に委託して行い、一部の遺構・土層堆積等の実測については調査員及び調査補助員が行った。遺構の製図および遺物の実測・製図は兵庫県立考古博物館嘱託員が行った。
4. 写真は、遺構を調査員が担当し、遺物については(株)タニグチ・フォトに委託した。
5. 本書の図版 2「周辺の遺跡」は、国土地理院発行の 1/2,500「三木」を使用した。また、図版 3「周辺の地形」は、加古川市発行の 1/2,500 都市計画図を縮小して使用した。
6. 本書で使用した標高は東京湾平均海水準(T.P.)を基とし、方位は国土座標 V 系の座標北を指す。
7. 本書の編集・執筆は、西口が行った。
8. 調査で出土した遺物は、兵庫県教育委員会魚住分館(明石市魚住町清水立合池の下 630-1)に、作成した写真・図版等の資料は兵庫県立考古博物館(兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号)において保管している。



# 本文目次

|       |          |      |
|-------|----------|------|
| 第I章   | はじめに     |      |
| 第1節   | 調査に至る経緯  | (1)  |
| 第2節   | 本発掘調査    | (2)  |
| 第3節   | 整理作業     | (3)  |
| 第II章  | 位置と環境    |      |
| 第1節   | 地理的環境    | (4)  |
| 第2節   | 歴史的環境    | (4)  |
| 第3節   | 周辺の遺跡    | (5)  |
| 第III章 | 東沢古墳群の調査 |      |
| 第1節   | 遺跡の概要    | (6)  |
| 第2節   | 遺構       | (6)  |
| 第3節   | 遺物       | (8)  |
| 第4節   | まとめ      | (10) |
| 第IV章  | 東沢中遺跡の調査 |      |
| 第1節   | 遺跡の概要    | (11) |
| 第2節   | 遺構       | (12) |
| 第3節   | 遺物       | (14) |
| 第4節   | まとめ      | (14) |
| 第V章   | 地形の分析    | (16) |

# 表目次

|    |              |      |
|----|--------------|------|
| 表1 | 東沢古墳群出土遺物観察表 | (17) |
| 表2 | 東沢中遺跡出土遺物観察表 | (18) |

# 図版目次

|     |                   |      |                     |
|-----|-------------------|------|---------------------|
| 図版1 | 遺跡の位置             | 図版10 | 出土遺物 I (東沢古墳群)      |
| 図版2 | 周辺の遺跡             | 図版11 | 出土遺物 II (東沢古墳群)     |
| 図版3 | 周辺の地形・調査範囲        | 図版12 | 遺構全体図 I (東沢中遺跡)     |
| 図版4 | 遺構全体図 (東沢古墳群)     | 図版13 | 遺構全体図 II (東沢中遺跡)    |
| 図版5 | 調査区南壁土層名 (東沢古墳群)  | 図版14 | 調査区南壁土層断面図 (東沢中遺跡)  |
| 図版6 | 2号墳・3号墳周溝 (東沢古墳群) | 図版15 | SB01・SB04 (東沢中遺跡)   |
| 図版7 | 2号墳主体部 (東沢古墳群)    | 図版16 | SB02・焼土SX02 (東沢中遺跡) |
| 図版8 | 2号墳墓坑 (東沢古墳群)     | 図版17 | SB03 (東沢中遺跡)        |
| 図版9 | 焼土坑 (東沢古墳群)       | 図版18 | SX03・出土遺物 (東沢中遺跡)   |

## 写真図版目次

- 巻頭図版 1 航空写真
- 巻頭図版 2 調査地点遠景(南西から)・調査地点近景(南から)
- 巻頭図版 3 東沢2号墳(右)・3号墳(左)南から)・東沢中遺跡(南から)
- 巻頭図版 4 東沢2号墳 出土玉類・同 出土耳環・同 出土鉄製品
- 写真図版 1 東沢2号墳(右)・3号墳(左)
- 写真図版 2 東沢2号墳・3号墳 全景(東から)・同(西から)
- 写真図版 3 東沢2号墳・3号墳 全景(東から)・東沢2号墳 全景(北から)
- 写真図版 4 2号墳 全景(西から)・同 主体部(南から)・同 主体部(南東から)
- 写真図版 5 2号墳 床面 遺出土状況(東から)・同 須恵器杯・ガラス小玉出土状況・同 石室掘方(南から)
- 写真図版 6 3号墳 全景(東から)・3号墳 周溝(北から)・2号墳 周溝 堆積状況・3号墳 周溝(北から)
- 写真図版 7 焼土坑(南から)・焼土坑 完掘状況(南から)・調査前の状況・作業の状況
- 写真図版 8 東沢2号墳 出土遺物(1)・3号墳出土遺物
- 写真図版 9 東沢2号墳 出土遺物(2)
- 写真図版 10 東沢2号墳 出土遺物(3)
- 写真図版 11 東沢2号墳 出土遺物(4)
- 写真図版 12 東沢2号墳 出土遺物(5)
- 写真図版 13 東沢2号墳 出土遺物(6)
- 写真図版 14 東沢2号墳 出土遺物(7)
- 写真図版 15 東沢中遺跡全景(南から)・同 III区(南から)
- 写真図版 16 調査区 全景(東から)・III区 全景(南から)
- 写真図版 17 調査区 全景(西から)・I区 全景(東から)・II区 全景(東から)
- 写真図版 18 II区 近接(東から)・同(西から)・同 西半部(西から)
- 写真図版 19 III区 全景(東から)・同 近接(東から)・SB01・SB04(東から)
- 写真図版 20 III区 全景(東から)・SB04(東から)・SB04(北から)
- 写真図版 21 SB02・SB04(東から)・SB04(東から)・SB02 壁溝
- 写真図版 22 SB04(東から)・SB04(北から)・SB04(東から)
- 写真図版 23 SB01・SB02・SB03 柱穴
- 写真図版 24 SB04・SB05 柱穴・調査前の状況・調査前遠景・II区 南壁
- 写真図版 25 東沢中遺跡 出土遺物(1)
- 写真図版 26 東沢中遺跡 出土遺物(2)

# 第I章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

兵庫県東播磨県民局県土整備部加古川土木事務所が進める(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴い、埋蔵文化財に関する調査が実施されている。

本報告書に所載した東沢2号墳・3号墳(東沢古墳群)東沢中遺跡は、平成12年度に当該地周辺において重点的に実施した分布調査(2000032)の結果、確認調査によって存在が明らかになった遺跡である。

東沢2号墳については平成16年度の確認調査(2004197)結果を踏まえて発掘を実施した。

調査を実施してゆく過程で、2号墳の周溝が調査区外(西側)に広がることが判明した。また、調査区の東側においても新たな古墳の周溝を確認したため(3号墳)加古川土木事務所と協議の結果、東西に拡張し調査を実施した。

東沢中遺跡については平成16年度の確認調査(2004197)結果を踏まえて、発掘を実施した。

また、今回の調査の結果、調査区北側へ建物跡が延びる可能性が高くなり、加古川土木事務所と協議の結果、確認調査(2005189)を後日実施している。その結果をもとに追加の本発掘調査を実施した。

### [分布調査の経過]

平成12年度に計画路線の総延長約6.0裏、約250,000㎡について分布調査を行い(遺跡調査番号2000032)24箇所において遺物が採取され、埋蔵文化財が包蔵される可能性が高いと判断された。

#### 調査の組織

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 寺内幸治

企画調整班 調査専門員 山本三郎

主査 甲斐昭光

総務課 課長 森 俊雄

調査担当 調査第1班 主査 種定淳介

主任 小川弦太

研修員 大崎晃司

臨時職員 海邊博史

### [確認調査の経過]

分布調査の結果を受け、平成16年9月に確認調査(遺跡調査番号2004197)を実施した。

調査対象地は大きく4地点 満之口地区・水足地区・望塚地区・カマ谷地区に分かれる。

望塚地区に設定した20トレンチ・30トレンチ・32トレンチ・36トレンチにおいて横穴式石室の一部及び古墳墳丘の一部を確認した(東沢2号墳)。

また、同じく望塚地区に設定した65トレンチ・67トレンチ・76トレンチ・85トレンチにおいて柱穴・焼土・炭化物を確認した(東沢中遺跡)。

調査期間は、平成16年9月13日～11月26日。調査面積は2,263㎡であった。

#### 調査の組織

|      |                    |       |  |
|------|--------------------|-------|--|
| 調査主体 | 兵庫県教育委員会           |       |  |
| 調査事務 | 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所 |       |  |
|      | 所長                 | 平岡憲昭  |  |
|      | 企画調整班 主査           | 深井明比古 |  |
|      | 主査                 | 中川 渉  |  |
|      | 総務課 課長             | 織田正博  |  |
| 調査担当 | 調査第2班 調査専門員        | 山本三郎  |  |
|      | 主査                 | 吉識雅仁  |  |
|      |                    | 深江英憲  |  |
|      |                    | 池田征弘  |  |

## 第2節 本発掘調査

確認の結果を踏まえ、兵庫県東播磨県民局 県土整備部 加古川土木事務所より平成17年7月20日付東撰(加土)第1254号で依頼を受け、東沢2号墳・東沢中遺跡の本発掘調査を実施した。

(東沢2号墳・3号墳)

調査を実施してゆく過程で、2号墳の周溝が調査区外(西側)に広がることが判明した。また、調査区の東側においても新たな古墳の周溝を確認したため(3号墳)、加古川土木事務所と協議の結果、東西に拡張し、調査を実施した。

(東沢中遺跡)

また、東沢中遺跡では、本発掘調査の結果、北側へ建物跡が延びる可能性が高くなった。このため、加古川土木事務所と協議の結果、再度確認調査(2005189)を行い、結果約102㎡の追加本発掘調査を実施した。

調査の方法は東沢2号墳・3号墳、東沢中遺跡の調査対象範囲の両地点を合わせた703㎡について水田耕土・近世以降の堆積土については機械力によって排除し、以下の堆積については人力によって掘削・精査を実施した。

また、ヘリコプター使用による空中写真撮影を平成17年10月26日、同18年2月28日(東沢中遺跡拡張区)に実施している。

本発掘調査に関わる調査期間・面積は以下の通りである。

東沢2号墳・3号墳：平成17年9月14日～11月4日。調査面積は503㎡

東沢中遺跡：平成17年9月14日～11月4日。調査面積は601㎡

東沢中遺跡(拡張区)：平成18年1月24日～3月13日。調査面積は102㎡

#### 調査の組織

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

所長 平岡憲昭

企画調整班 主査 深井明比古

主査 中川 渉

総務課 主査 若狭健利

調査担当 調査第1班 調査専門員 吉田 昇

主査 岡田章一

主査 西口圭介

調査参加者 野村大作・門田諭佳

作業委託 株式会社 共友建設

作業委託 三宅建設

### 第3節 整理作業

出土遺物の整理については、平成17年(本発掘調査時)に遺物洗浄から実測までを実施した以外すべて平成22年度に実施した。

調査主体 兵庫県教育委員会

調査事務 兵庫県立考古博物館

調査第1課：西口圭介

整理保存課：岡田章一・山本 誠

実測・製図・撮影補助・レイアウト：池田悦子・柏木明子・高瀬敬子

接合・補強：吉田優子・西口由紀・蔵 幾子・荻野麻衣・伊藤ミネ子・齊藤有紀・谷脇里奈

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

遺跡は兵庫県加古川市八幡町上西条に所在する。

加古川市八幡町は、神戸市より西へ30 km、姫路市より東へ20 kmで加古川市の北部に位置している。加古川市は旧播磨国に属し、南を瀬戸内に面し、東を明石市・三木市・加古郡稲美町・同郡播磨町、北を加西市・小野市、西を高砂市・姫路市と接する。

加古川市は明治22年の町村施行により、現地域の加古郡に1町(加古川町)8村、印南郡には8村が成立。昭和25年(1950)加古川町を核として加古川市が成立、同26年から同54年までに次々に周辺町村を合併して現地域となった。

平成22年11月現在の加古川市の人口は約26万9千人、面積は138.5 km<sup>2</sup>である。

八幡町上西条は、市の北東部に位置している。中央部を南北に主要県道神戸加古川姫路線、北部をJR加古川線と草谷川が走る。北は加古川の流れが北へ変わったため、上荘町都染・上荘町国包・八幡町船原との間で境界が入り込んでいる。

遺跡周辺の地形については、詳細は、第Ⅴ章に譲るが、東沢古墳群(2号墳・3号墳)・東沢中遺跡の調査区はともに加古川中流部の段丘上に位置しており、加古川中流部(西脇市街地～日岡山)にある6面の段丘のうち上位から2番目の更新世段丘に位置している。上位5面が更新世段丘、最下位の段丘が完新世段丘である。

また、両調査区の南側には、段丘を刻む開析谷がみられ約300 mの幅をもち、調査区の南西側でおよそ90度北へ屈曲している。谷底は、調査区付近で段丘面より7～8 m低く、その後更に高度を下げて調査区北方の完新世段丘面にスムーズに連続している。

両調査区付近の段丘面は、北を更新世段丘Ⅱの段丘崖、南を開析谷に区切られ、東西に細長く、中央部から北および南へ緩やかに傾斜している。この傾斜は段丘化後の侵食に起因しており、調査区付近の段丘面では、降水などが北側の段丘崖下および南側の開析谷へ流れ、段丘面の北部と南部が全体的に少し侵食されることが見て取れる。

更新世段丘Ⅱ上は、水害の危険性がなく、排水の便がよいため、集落や東沢2号墳のような古墳(墓)などが立地しやすく、開析谷の谷底では、谷底の堆積物を土壌に使った水田耕作が行われていたと考えられるのである。

### 第2節 歴史的環境

両遺跡が所在する上西条は、古代には当地は、『和名抄』所載の望理郷に入っており、播磨国風土記では望理里として記載されている。

望理里は、加古川が湾曲する辺りの東岸地域が当たると考えられ、現加古川市神野町・八幡町から稲美町北部にかけてと考えられる。加古川が湾曲する描写は、播磨国風土記にあり地名の語源とされている。

上西条・中西条あるいは、現神野町西条を含む西条の名は、中世の史料に既に見えており、康永2年

(1343)あるいは応永2年の『赤松義則書下案』や享祿3年(1530)の『別所村治感状』には西条の名がみえる。

この西条は南北朝期には、賀古庄から分離した賀古新庄に属していたと考えられるが、賀古新庄の明確な庄域はつまびらかではない。

賀古新庄については、観応2年(1351)、観応の擾乱の際には、高倉範仲が賀古新庄などの地頭職年貢米を太山寺に寄進した記録が残っている。

更に室町期にはいと、万里小路時房家領になっていたとみられる。嘉吉の乱(1441)後には管領細川持之と知行安堵のやり取りをした記録が残っている(建内記)。

上西条は、江戸時代には上西条村と呼ばれ、慶長国絵図には既に『上西条』と見える。正保郷帳によれば、田方413石余、畑方140石余の記録が残っており、万治4年(1661)には加古新田(福美町)の開発を申請・許可されている。また、寛延2年(1794)の姫路藩領一揆に際しては、当村の西条組大庄屋平九郎が中西条など組内諸村から打毀しにあい、処罰を受けた記録が残る。

### 第3節 周辺の遺跡

東沢古墳群・東沢中遺跡周辺を含めた加古川市東部域の遺跡については、兵庫県教育委員会発行『神野大林窟跡群(2010)』や今年度に刊行される『天王山古墳群』など既刊・今年度刊行予定の南北自動車道建設関連ほかの報告書に詳しく、本報告では多くを触れない。周辺の遺跡については、分布地図と一覧を上げておく。

旧石器時代・縄文時代の遺跡は、加古川市域では台地・段丘上などで遺物が採取されている。周辺では神野町城山遺跡において旧石器が採取されている。縄文時代の遺跡では、かつて八幡町宮山遺跡において後期の住居跡・敷石遺構が検出されているが、後の調査では確認できていない。

弥生時代では、八幡町野村遺跡、神野町西条廃寺下層遺跡から中期後半の遺構が見つまっている。

古墳時代では、神野町西条にある神野遺跡において集落遺跡が見つかっており、古い時期の古墳としては、日岡山古墳群や西条古墳群が周辺地における代表的な古墳群である。

古墳時代後期から奈良時代にかけての生産遺跡としては、八幡町野村窟跡群(6世紀後半)や野新村窟跡群(7世紀中～8世紀初)あるいは6世紀前半に操業が過ぎる神野大林窟跡群が存在する。

また、奈良時代には、神野町の段丘上に西条廃寺や石守廃寺が建立されている。

窟跡の操業は、平安時代に入ると志方町から加西市にかけての志方窟跡群、更には11世紀に入ると三木・神出・魚住へと中心が移ってゆくが、12世紀には八幡町上西条において天王山窟跡が操業し、瓦・須恵器碗・須恵器捏鉢類を焼いていることが近年の調査において明らかとなっている。

## 第三章 東沢古墳群の調査

### 第1節 遺跡の概要

#### 概 要

東沢2号墳・3号墳は加古川中流部の段丘上に位置する。加古川中流部(西脇市街地～日岡山)には、段丘が6面存在しており、そのうち上位5面が更新世段丘、最下位の段丘が完新世段丘である。詳細は『第V章 地形の分析』に譲るが、古墳群は、更新世段丘Ⅱ上に立地しており、北側を段丘崖、南を開析谷(現猫池)に境され、東西に細長い、中央部から北および南へ緩やかに傾斜する地形の上に乗っている。今回の調査地点は、その中でも南向きの傾斜地にあたり、弓形に広がる猫池に向かって傾斜してゆく。現況は耕作地である。

調査の結果、2基の古墳(2号墳・3号墳)及び2号墳に伴う焼土坑(祭祀土坑)を検出した。

両古墳は東西に並んで構築されており、検出された標高は約41.2mである。等高線に沿って並んでいた可能性が高い。

両古墳ともに墳丘は削平され盛土は殆ど残っていない。また、調査区(用地内)において検出できた部分は共に古墳の1/2程度である。南半分は調査区外にある。

2号墳より猫池に至る傾斜面中には2号墳主体部の用材を含め、多量の石材が散らばっており、付近には2号墳・3号墳以外の横穴式石室墳が存在していた可能性は高い。

#### 層 序(図版4・5)

圃場整備が行われているため、調査区の大半で、現耕土・床土より地山あるいは墳丘盛土が出現している。部分的に圃場整備以前の層序が遺存するがその大半は近世以降の水田耕作土である。検出遺構を被覆する包含層あるいは土壌層の存在は乏しい。

2号墳の西側は圃場整備後も一段耕地が低くなっており、旧地形において小規模な谷地形が入り込んでいたと考えられる。これは、古墳前面にある猫池の平面形が示す凹凸にも現れている。

なお、周辺の地形については立命館大学非常勤講師 青木哲哉氏にご教示いただいた。『第V章 地形の分析』において述べる。

### 第2節 遺 構

#### (2号墳)

##### 外部施設(図版4・5)

検出状況 古墳の南半分は調査区外にある。3号墳の東隣に位置する。

規模 東西の周溝を含めた全幅は約25m、検出できた全長は13mをはかる。

周溝 周溝は水田造成による削平のため、場所によって幅・深さともにばらつきがあるが、2.5m～5m、深さは10cmから50cmを測る。形状は後世の造成などで明確ではないが、墳形の楕円形に対し、円形に巡っていた可能性が高い。

墳丘 墳丘幅は約15m、検出できた墳丘の全長は10mを測る。

墳形は楕円形を呈している。墳丘は削平され盛土は殆ど残っていないが、南西隅には若干の盛土と旧地表が確認できた。残存する墳丘の高さは周溝底から約60cmである。

#### 内部主体 (図版7・8)

検出状況 主体部は横穴式石室である。使用石材は全て抜き取られるが、石室内に転落しており、元位置を保つものはない。抜き痕の状況から無袖式石室もしくは退化した右肩袖式石室であったと考えられる。

墓坑 全長5m以上、幅5mを測る。墓坑は大きく長方形に浅く掘り込み、更に石室を構築する部分についてはこの字形に溝掘りを行っている。更に個々の石材の据付部分を窺わせている。

石室 石室全長は内法で4.5m以上、幅は奥壁周辺で1.6m以上を測る。因みに奥壁の用材とみられる板石が倒れた状態で検出されており、1.7m×0.9m×0.2m(厚)を測る。また、石材が全て抜かれ、据付痕からの推測になるが、袖石を意識したと考えられる屈曲を動案すれば、玄室長は約3.0m、羨道幅は約1.0mと推測される。

#### 出土遺物 (図版10・11)

須恵器杯、ガラス小玉1点、土製小玉4点、耳環2個のほか錆化した鉄製品(釘もしくは鐵)が数点出土している。

#### 時期

遺物の時期から6世紀後半から末の時期に構築されたと考えられる。

また、周溝の堆積状態から推して3号墳より新しい可能性がある。

#### 備考

追葬の有無については不明である。擾乱が激しいこともあり、追葬面は確認できなかった。

#### [3号墳]

##### 外部施設 (図版4・5)

検出状況 古墳の大半は調査区外にある。2号墳の東隅に位置する。

規模 東西の周溝を含めた全幅は約16m、検出できた全長は5.5m、墳丘幅は約10.5m、検出できた墳丘の全長は南北方向で約3mを測る。

周溝 周溝は、幅2.5m、深さは15cm～35cmを測る。

墳丘 墳形は円形もしくは、隅丸方形であった可能性も残る。

##### 内部主体

主体部は検出されなかった。調査区外に石材が露出していることから横穴式石室もしくは小竪穴式石室が存在する可能性が高い。

##### 出土遺物 (図版10)

遺物は周溝内から短頸壺・台付き長頸壺の破片が出土している。

#### 時期

時期は6世紀後半から7世紀にかけてと考えられる。

また、周溝の堆積状態から推して2号墳より古い可能性がある。

## 〔焼土坑〕

### 検出状況

2号墳墳丘上より検出した方形土坑である。土坑は石室の東側、おそらく墳丘中央から真東にあたる墳丘裾部に位置する。

### 規模と様相

1辺1.15m、深さ約40cmを測る。土坑底は1段深くなり、丸く窪む。土層堆積状況から推して、4層によって埋めた後、掘り直されている可能性が高い。

土坑は内壁が被熱によって赤変しており、内部で複数回、火を焚いたことが窺える。内部には、拳大の河原石と多量の炭が充満していた。

### 備考

焼土坑は、後期古墳では西日本を中心に全国で検出されており、古墳に伴う祭祀に使用されたと考えられる。

### 出土遺物

遺物の出土はなかった。

### 時期

時期は不明であるが2号墳に伴う可能性が高い。

## 第3節 遺物

### 2号墳出土の土器（1～22）

図示できた出土土器はすべて須恵器である。

1～8は石室内から出土した須恵器杯蓋である。

1・2・5は天井部のヘラ切り後のナデ調整が甘く、全体に丸みを帯びる個体である。これらは、口縁部を一部欠くが完形に復元できる。3・4・7についても天井部を欠くが、同様の器形と考えられる。

6・8は天井部が平坦な器形である。8の天井部はヘラ切り未調整、6についてはヘラ削りが認められる。

10～15は石室内から出土した須恵器杯身である。16は石室墓壇掘方から出土しているが、石材抜き取り時に石室内より混入したものと考えられる。

10は底部を欠く。やや体部が開く個体である。口縁部は低く、返りは水平に短い。

11は口縁の立ち上がりを欠く。返りは短く水平に張り出す。体部は丸みを持ち底部のヘラ切り調整は不十分、工具痕跡が残る。

12は口縁部の立ち上がりは短く。返りは短く水平に張り出す。底部は平坦である。

13はやや小径の個体である。口縁部の立ち上がりは短く。返りは短く水平に張り出す。底部を欠く。

14は返りが短く斜めに張り出す。体部は開く。底部を欠く。

15は口縁部が短く内傾し、直線的な体部をもつ。ヘラ切り未調整の底部は平坦である。

16は口縁部が短く内傾する。体部下半以下を欠く。

17は杯もしくは壺の蓋と考えられるが口縁部を欠く。天井部は回転ナデによって仕上げられ、摘みの

頂部は窪みをみせる。

18 は提瓶の口頸部である。上部が若干受け口状に立ち上がる。20 とは法量から同一個体ではないと判断した。

19 は口径 10 cm を測る大型の平瓶の口頸部と考えられる。頸部に 2 本の浅い凹線が巡る。

20 は提瓶である。口頸部を欠く。体部に円形のヘラ描き沈線と水平に 2 本の沈線が描かれている。

21 は口頸部を欠く平瓶である。肩部は丸みを持ち稜をもたない。同一個体と考えられる円形浮文をもつ破片が出土している。

22 は柳描き波状文がめぐる壺口縁部片である。口縁端部外面には 2 本の沈線が巡り、直下より波状文が描かれる。

23 は長頸壺である。口縁端部は人為的に打ち欠かれている。頸部より体部下半までカキ目が巡る。体部下半には横方向のヘラ削りが施される。

### 3号墳出土の土器(23)

23 は 3 号墳周溝より出土した須恵器細頸壺である。口縁部を人為的に打ち欠いている。頸部には 2 箇所浅い沈線を巡らせ、頸部より、体部下半にかけて細いカキ目を巡らせる。底部外側面は横左方向へのヘラ削りを施す。下面はヘラナデ調整を施す。内面は頸部・体部ともに口口ロナデを施す。

### 2号墳出土の玉類(J1-J5)

ガラス製小玉 1 点、土製小玉 4 点が出土した。ガラス製小玉 J1 は、長さ(直径) 0.50 cm、厚み 0.30 cm、孔径は 0.30 cm を測る扁平な青緑色のガラス製小玉である。

土製小玉は、長さ(直径) 0.80 cm、厚みは 0.60 - 0.80 cm、孔径は 0.30 cm を測る。全体に球形に近い。

### 2号墳出土の金属製品(M1-M20)

金属製品 20 点を図示した。M19 を除き、いずれも 2 号墳主体部より出土している。

M1・M2 は耳環である。M1 は銀環(銅芯銀張環)である。外径 2.75 cm・内径 1.80 cm を測る。M2 は遺存状態が悪い銅環である。玄門部付近から出土した。メッキの有無については詳らかではない。外径 1.85 cm・内径 1.50 cm を測る。両者は対になるものではない。

M3 - M5 は馬具に伴う金具と考えられる鉄製品である。

M3 は 1 辺 3.00 cm の菱形の鉄板に 4 本の笠鉾を打ったと考えられる鉄製の飾金具である。鉾は 3 本が遺存する。鉄板は裏面が窪み中央よりも各縁が垂下する。金銅張りなどは確認できなかった。

M4・M5 は長方形の鉄板に笠鉾を打つ革金具である。

M4 では 2.50 cm × 1.65 cm の長方形の板に 2 本の笠鉾が遺存する。革質の付着や金銅張りなどは確認できなかった。

M5 では 2.35 cm × 1.60 cm の長方形の板に 1 本の鉾の残骸が残り、もう 1 箇所には板に円孔が穿たれている。鉾頭を欠くが、M4 と同形の金具と考えられる。革質の付着や金銅張りなどは確認できなかった。

M6・M7 は刀の鐔と考えられる。破片の幅はほぼ同一であるが、M6 は断面では縁側がやや薄く、M7 では縁側が厚く同一個体が否かは判断できない。また、鐔の形状についても明らかではない。

M8 は確認調査時に出土した刀の破片である。鋒側に木質が遺存する。身幅は約 3.30 cm を測る。刃部の形状は詳らかではない。

M9 - M15 は鉄鑑である。

- M 9 は外側に開く形状から方頭式鑑の一部などと考えられる。
- M 10 はやや小さいがM 9 と同様の鉄鑑の一部と考えられる。
- M 11 ・ M 12 は長頸柳葉式の鑑である。
- M 13 ・ M 14 は長頸鑑の茎部である。いずれも関部は角関である。
- M 15 は関部が刺突状の長頸鑑の茎である。
- M 16 は鉄鑑の茎部の可能性があるが、木質が付着しており、木棺の釘であった可能性がある。
- M 17 は鉄鑑の茎もしくは釘の破片と考えられる。
- M 18 は鉄鑑の茎部と考えられる。糸状の繊維が巻きつく。
- M 19 は楔状の鉄製品である。下方に向けて幅をそのままに厚みを減じる。
- M 20 は約 1.40 cm の厚みをもつ断面五角の柱状の鉄製品である。性格は不明である。

#### 石 鑑 (S 1)

S 1 は 2 号墳墳丘上より出土した。サヌカイト製の有基式打製石鑑である。両面を加工し稜をもつ。また、剥片が出土している。

### 第 4 節 まとめ

調査の結果、2 基の後期古墳を検出・調査した。周満上部が削平され、両古墳の先後関係は不明である。3 号墳の周満内埋土が、2 号墳の周満内埋土に切られていることから、3 号墳が先行する可能性も考えられる。

2 号墳・3 号墳は現猫池となっている谷地形に対して並んで築造されている。周辺には多量の石材が散乱しており、周辺には大規模な開墾に伴って消滅した古墳が存在する可能性は高い。

## 第IV章 東沢中遺跡の調査

### 第1節 遺跡の概要

東沢中遺跡は加古川中流部の段丘上に位置する。加古川中流部(西脇市街地～日岡山)には、段丘が6面存在しており、そのうち上位5面が更新世段丘、最下位の段丘が完新世段丘である。詳細は、第V章地形の分析に譲るが、東沢中遺跡は、更新世段丘Ⅱ上に立地しており、北側を段丘崖、南を開析谷に境され、東西に細長い、中央部から北および南へ緩やかに傾斜する地形の上に乗っている。今回の調査地点は、その中でも南への傾斜地に當まれていたと考えられる。

調査は調査対象地の中央を東西に走る水路を挟んだ2つの調査区を対象とした。

北側に位置し広い調査区をⅡ区、水路の南側をⅠ区とした。Ⅱ区は約583㎡、Ⅰ区は約120㎡である。遺構面の標高は42.2m前後である。

調査の結果、掘立柱建物5棟、落ち込み1基を検出した。これ以外に南北に走る幅50cm前後の溝13本を調査しているが、層序から推して、これらは近代の畑作あるいは、耕地の造成に伴う排水・排湿に伴う施設であったと考えられる。

これらの溝の中から時期を明らかにする遺物の出土はなく、遺跡の時期に関連する遺物が若干出土している。東端のSD0002からは、鉄釘(M21)、西よりのSD0004からは、須恵器杯底部(31)が出土している。(31)の時期は詳らかではないが、7世紀から8世紀にかけてのものと考えられる。

また、調査区内には建物として認識できなかった柱穴がいくつか存在しており、ある一定期間集落が存続していたと考えられる。今回、欠番としたSB05はSB02と重複して柱穴列が検出されており、先後関係は不明であるが、東西1間(約6.8m)以上、南北1間(約4.2m)の規模を測る建物であった可能性も残る。

#### 層 序 (図版14)

近現代の水田造成によって階段状に土地が改変されているため、Ⅰ区では耕土・床土直下より遺構面(ベース)が出現する。Ⅱ区では堆積層は調査区の北側では残っておらず耕土・床土直下より遺構面(6層あるいは1層)が出現しており、土壌層(5層)の被覆は南半を中心に出現する。

基本的に、調査区は現耕作土の下に圃場整備に伴う盛土(12層)があり、旧耕土を挟まず出現する盛土23層を切ってSD0001からSD0013が南北に掘削されている。23層直下からは部分的に5層・13層が出現しており、これらは土壌化していることから、旧地表であったと認識されるものである。

この5層は、Ⅱ区東端にあるSX1001を埋没させている。SX1001は、最終的に33層によって埋没するが、中層に5層が堆積している。5層は広く南壁において認められ、SX1001を半ば埋めると同時に、遺構面を覆う土壌層であったと考えられる。

今回検出した建物の柱穴は総じてこの5層によって被覆されており、SB02の壁溝は断面観察では半ば5層によって埋没している状態である。

## 第2節 遺構

### SB01 (図版15)

検出状況 II区西端北よりに位置する。

形状・規模 桁行方位をN87°Wに取る側柱建物跡である。東西3間(約4.3m)、南北3間(4.0m)の規模を測る掘立柱建物である。建物の北半分は拡張区の調査によって検出した。

柱穴 円形を基本とし径約70cmの柱穴を使用しており、柱間は各1.4mを測る。掘方径約50cm、柱痕は径約20cm、深さは約30cm～40cmである。

出土遺物 柱穴から建物の時期の特定できる遺物は出土していない。

### SB02 (図版16)

検出状況 II区西端西より、SB03の西隣に位置する。

形状・規模 桁行方位をN85°Eに取る側柱建物跡である。桁行4間以上(約6.8m以上)、梁行2間(4.2m)の規模を測る掘立柱建物である。

屋内施設 壁溝・柱穴・竈を検出した。

壁溝 本建物からは柱穴を結んで幅15cm前後の壁溝が検出されており、壁溝の内側の床面では変色のみ見られた。

柱穴 円形を基本とし径約70cmの柱穴を使用しており、柱間は各1.4mを測る。掘方径約50cm、柱痕は径約20cm、深さは約30cm～40cmである。

焼土SX02 竈を置いたと考えられる焼土SX02が検出されている。SX02は東半をSD0011によって損壊されているため、形状・規模は詳らかではないが、南北幅約70cm・東西長65cm以上・厚み8cmを測る楕円形をしていたと考えられる焼土・炭層である。炭層は大きく広がり、焼土は炭層の上部に乗る。近接して径20cm前後の炭ピットが検出されており、壁際につくられた竈などの存在が考えられる。

出土遺物 柱根の抜き取り穴P1028・P1029から土師器残片(28)が纏まって出土している。

備考 土師器(28)から、SB02の時期は、7世紀代と考えられる。

なお、SB02と重複して柱穴列があり、調査時にはSB05としたが、歪みがあり今回の報告では欠番とした。

### SB03 (図版17)

検出状況 SB02の東隣に位置する。

形状・規模 桁行方位をN85°Eに取る側柱建物跡である。桁行4間(約7.5m)、梁行2間(約3.5m)の規模を測る側柱建物である。

柱穴 円形を基本とし径約60cmの柱穴を使用しており、柱間は桁行1.7m、梁行方向では1.8m・2.0mを測る。柱痕は径約20cm、深さは約30cm～40cmである。

出土遺物 柱穴から建物の時期の特定できる遺物は出土していない。

SB04 (図版 15)

検出状況 II区中央北よりに位置する。

形状・規模 桁行方位をN0°Eに取る側柱建物跡である。東西3間(約5.0m)、南北3間(3.8m)の規模を測る側柱建物である。建物の北半分は後の確認調査によって3間×3間の長方形の側柱建物であることが判明した。

柱 穴 円形を基本とし径約60cmの柱穴を使用しており、柱間は1.7mを測る。

柱痕は径約20cm、深さは約30cm～40cmである。

出土遺物 柱穴から建物の時期の特定できる遺物は出土していない。

備考 SB01・SB06と近い軸方位を持ち、併存したと考えられる。

SB06 (図版 4)

検出状況 I区西端・II区中央南端にまたがって位置する。SB03と近接している。

形状・規模 桁行方位をN1°Eに取る側柱建物跡である。桁行3間(約6.0m)以上、梁行2間(約4.6m)の規模を測る擬立柱建物である。

柱 穴 円形を基本とし径約70cmの柱穴を使用しており、柱間は基本的に桁行2.0m、梁行2.3mを測る。柱痕は径約15cmである。

出土遺物 柱穴P1077から須恵器杯蓋(29)・P1054から須恵器台付壺(30)が出土している。

備考 柱穴から7世紀前半代の須恵器が出土している。

落ち込み SX01 (図版 18)

検出状況 II区東端において検出した。

形状・規模 東西10m以上・南北5m以上・深さ45cmを測る。

埋 土 底部には灰色シルトが堆積している。

出土遺物 須恵器長頸壺の頸部(34)、須恵器壺の肩部(35)が出土している。

備考 谷部もしくは池状の遺構であった可能性が高い。

落ち込み SX03 (図版 18)

検出状況 II区北端中央において検出した。

形状・規模 東西2.2m以上・南北2.7m・深さ15cmを測る不整形な落ち込みである。断面形状は浅い皿状を呈する。

埋 土 底部には灰黄色シルト質極細砂・中層には灰黄褐色シルト・上層には黄橙色シルトが堆積している。

出土遺物 遺物の出土はない。

備考 遺構の時期・性格は不明である。

### 第3節 遺物

#### 遺構出土の土器（28～31・34・35）

28はSB02柱穴P1028・P1029より出土した土師器長胴甕の体部である。卵形の形状をもち、肩が張らず、最大径を中位にもつ。口縁部・底部を欠く。口縁部は鋭く屈曲することなく、緩やかに外反するものと考えられる。底部についても丸みをもつものと考えられる。調整は、外面には粗い縦刷毛、内面は縦方向のヘラ削りを施す。

29はSB06の柱穴P1077から出土した。須恵器杯蓋である。口縁部は真直ぐ立ち上がるが、口縁部と天井部の境は甘い。

30はSB06の柱穴P1054から出土した。須恵器台付壺の脚部である。外方に開き、端部は外傾する。

31は近代の溝SD0004から出土した須恵器杯底部である。外面はヘラ切り後ナデ調整を行う。

34・35はSX1001から出土した。34は須恵器長頸壺の頸部、35は須恵器壺の肩部である。2点は同一個体の可能性が高いが、接点はない。肩部には甘い稜が入る。SX1001からはこの他にサヌカイト片S5が出土している。

#### 包含層出土の土器（32・33）

32は遺構面上より出土した土師器杯の体部片である。内外面ともに摩滅し、調整は詳らかではない。

33は確認トレンチ埋土から出土した。須恵器壺もしくは台付鉢の脚部である。やや内湾気味に立ち上がり、端部は肥厚して丸みを帯びる。

#### 金属製品（M21）

M21は近代の溝SD0002から出土した。和釘である。釘の頭部は折り曲げられて造りだされてあり、頭造り出し類（巻頭釘）に分類される。釘は先端に向けて細くなっており、全長は10cmに満たない中釘と考えられる。

### 第4節 まとめ

今回の調査では、出土遺物が少なく、検出した掘立柱建物跡群などの時期を決定することは難しいが、柱穴から出土した須恵器杯片から7世紀代の集落であった可能性が高い。SB02柱穴から出土した土師器甕片についても時期は矛盾しない。

調査区周辺は、圃場整備による造成によって激しく改変をうけており、集落の規模・性格については今回の調査では明らかにできなかったが、SB02では柱穴を結んで壁溝が検出されており、壁とカマド（SX02）を備えた建物が想定できる。

今回の調査では5棟の建物跡を検出したが、その形状からは、長方形プランの主屋（SB02・SB04・SB06）と正方形プランの付属屋（SB01・SB04）が存在すると考えられる。今回の調査地点では、造成による削平が激しいI区においても建物が復元できることから周辺地を含め主屋と付属屋から構成された建物群が展開していた可能性が考えられる。また、建物の主軸から正方位に近いSB01・SB04・SB06

とやや西へ振るSB02・SB03にグルーピングができそうである。

これらの集落は段丘上に位置しており、第V章において青木哲哉氏が述べておられるように生産域については段丘下の開析谷求めるべきであろう。また、同時期に、近接して存在したと考えられる東沢古墳群については、その距離から推して古墳群の造営主体の一部であったと考えることができよう。

また、遺跡の周辺は、『播磨国風土記』に記載されている望理里にあたり、今回検出された集落は里を構成していた集落の一つであったと考えられる。

## 第V章 地形の分析

遺跡周辺の地形分析については、立命館大学文学部 非常勤講師 青木哲哉氏に依頼し、知見を頂いている。

本稿は現地において作成していただいたコメントを西口が起稿したもので、更なる分析を重ねることによって変更される可能性があることをあらかじめお断りしておきたい。また、明らかな誤謬については西口に責がある。

今回の調査から、以下の点が指摘できる。

東沢中遺跡・東沢古墳群（2号墳・3号墳）の調査区はともに加古川中流部の段丘上に位置する。加古川中流部（西脇市街地～日岡山）には、段丘が6面存在しており、そのうち上位5面が更新世段丘、最下位の段丘が完新世段丘である。

ここでは、更新世段丘を上位のものから順に更新世段丘Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴと呼ぶことにする。

両遺跡の調査区は加古川南岸の更新世段丘Ⅱ面に位置している。加古川の現流路から南方にある本調査区にかけて観察すると現況氾濫原、完新世段丘、更新世段丘Ⅳ及び更新世段丘Ⅱが順次認められる。

そのなかでも特に更新世段丘Ⅳ面は、完新世段丘面より10m前後高く、その境界には顕著な段丘崖が見られる。また、調査区が位置する更新世段丘Ⅱ面はⅣ面より更に約4m高い。

更新世段丘Ⅱの堆積物は下位から黄灰色の砂礫、赤灰～黄褐色のシルト質砂礫、黄褐色のシルト、及び表土（耕土）である。

更新世段丘Ⅱの堆積物のなかで、下位の砂礫とシルト質砂礫は厚さ4m以上で、黄褐色のシルトは20～45cmの厚さで認められる。両遺跡の調査区では共に黄褐色のシルト上面が遺構検出面となっており、東沢中遺跡では黄褐色シルトの上位に19世紀の耕地造成に関連した盛土（黄灰色のシルト）がみられる。

黄灰色の砂礫、赤灰～黄褐色のシルト質砂礫は締まりがよく、そのうち後者のシルト質砂礫は赤色風化を受けている。これらは、更新世段丘Ⅱが最終氷期の中でもある程度古い段階に形成されたことを物語っている。

黄灰色の砂礫、赤灰～黄褐色のシルト質砂礫は扇状地の堆積物に相当する。調査区付近では、加古川によって形成された扇状地が洪水に伴うシルトに被覆された後、段丘化したと考えられる。なお、更新世段丘Ⅱには、扇状地の微地形（旧中州と旧河道）が埋没していると考えられるが、それらの分布状況については今のところ不明である。

両調査区の南側には、段丘を刻む開析谷がみられる。開析谷は比較的大規模なもので、約300mの幅をもつ。これは調査区の南西側で、およそ90度北へ屈曲する。谷底は、調査区付近で更新世段丘Ⅱ面より7～8m低く、その後さらに高度を下げて調査区北方の完新世段丘面にスムーズに連続する。これは開析谷が更新世段丘Ⅱの段丘化期（数万年前）から完新世段丘の段丘化期（弥生時代から中世にかけてのある時期）までに形成されたことを示している。

両調査区付近の段丘面は、北を更新世段丘Ⅱの段丘崖、南を開析谷に壊され、東西に細長い。それは、中央部から北および南へ緩やかに傾斜する。この傾斜は段丘化後の布状（面状）侵食に起因すると考えられる。つまり、調査区付近の段丘面では、降水などが北側の段丘崖下および南側の開析谷へ面状に流れ、段丘面の北部と南部が全体的に少し侵食されたのである。調査区付近における段丘面の中央部はあまり侵食されず、段丘形成時の高度をほぼ保っていると思われる。

更新世段丘Ⅱ上は、水害の危険性がなく、排水の便がよい。そのため、段丘面には東沢中遺跡で検出されたような集落や東沢2号墳のような古墳（墓）などが立地しやすい。一方、開析谷の谷底には、谷の形成後にたらされる厚さ数mの堆積物がよくみられ、また周辺から水が集まる。そのため、谷底の堆積物を土壌に使った水田耕作が行える。東沢中遺跡の建物跡に居住していた人間は、調査区南側にみられる開析谷底で水田を営んでいた可能性が高いのである。

表1 東沢古墳群出土遺物観察表

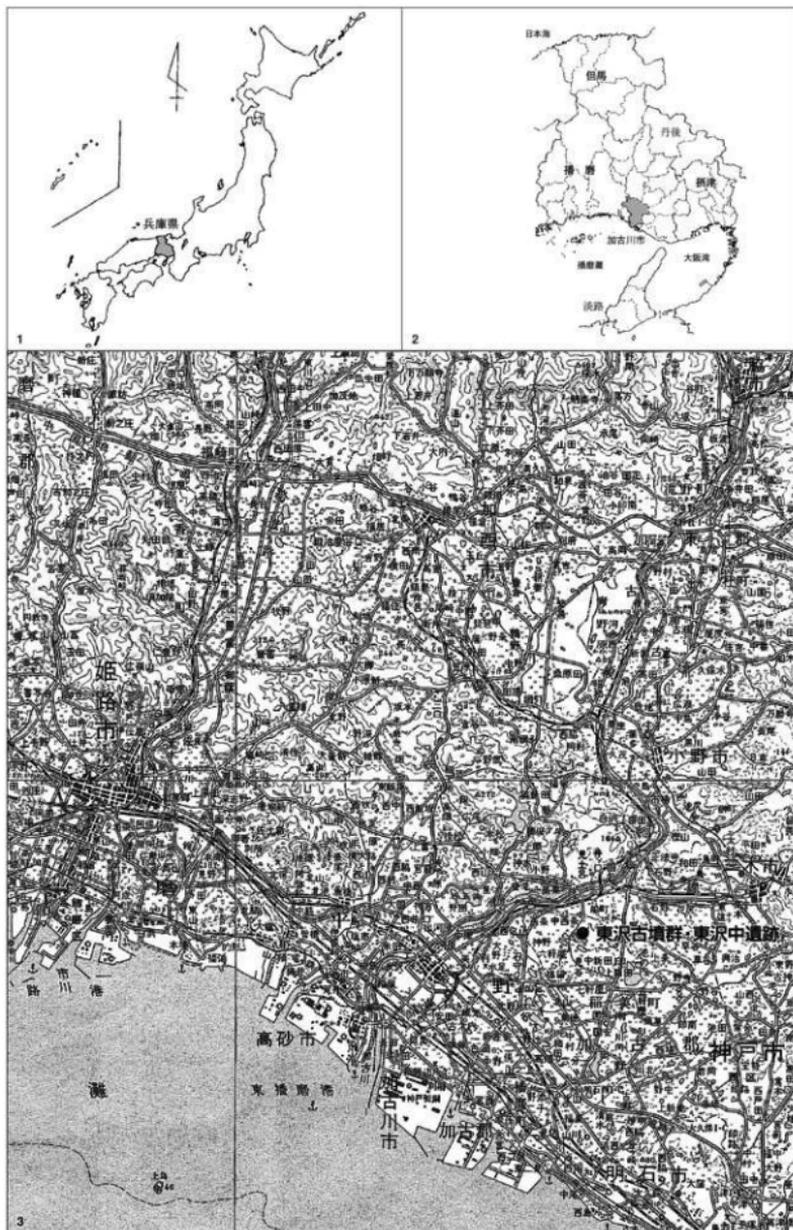
| 遺跡名   | 報告番号  | 図版番号 | 写真図版番号 | 種別   | 器種      | 法量(cm) |         |         | 残存他          | 備考         | 調査番号               | 出土地区    | 出土遺構 | 層位        |
|-------|-------|------|--------|------|---------|--------|---------|---------|--------------|------------|--------------------|---------|------|-----------|
|       |       |      |        |      |         | 口径     | 器高      | 底径      |              |            |                    |         |      |           |
| 東沢2号墳 | 01    | 10   | 8      | 須恵器  | 杯蓋      | (13.1) | 4.35    | —       | 口縁1/2欠損      |            | 2005141            |         | 石室内b | 床面上       |
|       | 02    | 10   | 8      | 須恵器  | 蓋       | 13.0   | 4.0     | —       | 口縁1/5欠損      |            | 2005141            | 2区      | 石室内b | 床面上       |
|       | 03    | 10   | 8      | 須恵器  | 杯蓋      | (14.9) | (3.15)  | —       | 口縁1/5        |            | 2005141            |         | 石室内  |           |
|       | 04    | 10   | 8      | 須恵器  | 杯蓋      | (13.5) | (2.4)   | —       | 口縁1/8        |            | 2005141            |         | 石室中央 | 床面上       |
|       | 05    | 10   | 8      | 須恵器  | 蓋       | 12.8   | 4.2     | —       | 口縁2/3欠損      | 確認と接合      | 2005141<br>2004197 | 20T     | 石室内  |           |
|       | 06    | 10   | 8      | 須恵器  | 杯蓋      | (12.8) | (2.8)   | —       | 口縁1/12       |            | 2005141            |         | 石室内  | 茶褐色土      |
|       | 07    | 10   | 8      | 須恵器  | 蓋       | (14.6) | (3.5)   | —       | 口縁1/4歯       |            | 2005141            | 2区      | 石室内b | 床面上       |
|       | 08    | 10   | 8      | 須恵器  | 杯蓋      | 12.6   | 3.45    | —       | 口縁1/4欠損      |            | 2005141            |         | 石室内c | 茶灰色極細砂    |
|       | 09    | 10   | 10     | 須恵器  | 杯身      | —      | (2.5)   | —       | 受け部1/10      |            | 2005141            |         | 石室   | 床面        |
|       | 10    | 10   | 10     | 須恵器  | 杯身      | (12.9) | (2.35)  | —       | 口縁若干         |            | 2005141            |         | 石室   | 床面        |
|       | 11    | 10   | 9      | 須恵器  | 杯身      | —      | (3.8)   | —       | 体部1/4        |            | 2005141            |         | 石室内c | 茶灰色極細砂    |
|       | 12    | 10   | 10     | 須恵器  | 杯身      | (11.9) | (2.9)   | —       | 口縁1/8        |            | 2005141            |         | 石室内c | 茶灰色極細砂    |
|       | 13    | 10   | 9      | 須恵器  | 杯身      | (12.0) | (3.0)   | —       | 口縁5/3        |            | 2005141            |         | 石室内c | 茶灰色極細砂    |
|       | 14    | 10   | 10     | 須恵器  | 杯身      | (13.8) | (3.25)  | —       | 口縁1/8        |            | 2005141            |         | 石室内  | 茶褐色土      |
|       | 15    | 10   | 8      | 須恵器  | 杯口      | 11.55  | 3.55    | 7.76    | ほぼ完形         |            | 2005141            | 2区      | 石室内b | 床面上       |
|       | 16    | 10   | 10     | 須恵器  | 杯身      | (12.9) | (2.35)  | —       | 口縁1/8        |            | 2005141            | 2区      | 掘方内c |           |
|       | 17    | 10   | 11     | 須恵器  | 蓋       | —      | (2.15)  | —       | つまみ2/5天井部1/5 | つまみ径(2.6)  | 2005141            | 2号墳北東   | 周溝部? | 埋土?黄茶色シルト |
|       | 18    | 10   | 11     | 須恵器  | 瓶       | (6.2)  | (4.45)  | —       | 口縁1/4        |            | 2005141            |         | 石室中央 | 床面上       |
|       | 19    | 10   | 11     | 須恵器  | 壺?      | (10.7) | (4.95)  | —       | 口縁1/6        |            | 2005141            |         | 石室内  |           |
|       | 20    | 10   | 11     | 須恵器  | 提瓶      | —      | (10.85) | —       | 体部若干         |            | 2005141            |         | 石室中央 | 床面上       |
|       | 21    | 10   | 11     | 須恵器  | 平瓶?(体部) | —      | (10.05) | —       | 体-底部1/5      | 腹径(14.6)   | 2005141            |         | 石室内c | 茶灰色極細砂    |
|       | 22    | 10   | 11     | 須恵器  | 器台?     | (20.0) | (3.05)  | —       | 口縁1/6歯       | 確認出土       | 2004197            | 20T     | 石室内  |           |
|       | 24    | —    | 9      | 須恵器  | 杯身      |        |         |         |              | 報13と同一     | 2005141            |         | 石室内c | 茶灰色極細砂    |
|       | 25    | —    | 9      | 須恵器  | 杯身      |        |         |         |              | 報13と同一     | 2005141            |         | 石室内c | 茶灰色極細砂    |
|       | 26    | —    | 11     | 須恵器  | 高杯      |        |         |         |              |            | 2005141            |         | 周溝a区 | 埋土中       |
|       | 27    | —    | 11     | 須恵器  | 提瓶?     |        |         |         |              |            | 2005141            |         |      | 茶灰色極細砂    |
|       | 東沢3号墳 | 23   | 10     | 8    | 須恵器     | 壺      | —       | (17.75) | —            | 頸部4/5体部1/4 | 腹径(16.0)           | 2005141 |      | 周溝d-北周溝   |
| 遺跡名   | 報告番号  | 図版番号 | 写真図版番号 | 種別   | 器種      | 法量(cm) |         |         | 残存他          | 備考         | 調査番号               | 出土地区    | 出土遺構 | 層位        |
|       |       |      |        |      |         | 長さ     | 幅       | 厚み      |              |            |                    |         |      |           |
| 東沢2号墳 | J1    | 11   | 12     | ガラス製 | 小玉      | 0.5    |         | 0.3     | 完形           | 色-青緑       | 2005141            | 2区      | 石室内b | 床面上       |
|       | J2    | 11   | 12     | 土製   | 小玉      | 0.75   |         | 0.65    | 完形           |            | 2005141            |         |      | 床面上       |
|       | J3    | 11   | 12     | 土製   | 小玉      | 0.8    |         | 0.65    | 完形           |            | 2005141            | 2区      | 石室内a | 床面上       |
|       | J4    | 11   | 12     | 土製   | 小玉      | 0.8    |         | 0.6     | 完形           |            | 2005141            |         |      | 床面上       |
|       | J5    | 11   | 12     | 土製   | 小玉      | 0.83   |         | 0.8     | 若干欠損         |            | 2005141            |         |      | 床面上       |

| 遺跡名   | 報告番号 | 図版番号 | 写真図版番号 | 種別   | 器種     | 法量(cm)           |        |        | 残存他          | 備考      | 調査番号               | 出土地区  | 出土遺構        | 層位    |
|-------|------|------|--------|------|--------|------------------|--------|--------|--------------|---------|--------------------|-------|-------------|-------|
|       |      |      |        |      |        | 長さ               | 幅      | 厚み     |              |         |                    |       |             |       |
| 東沢2号墳 | M01  | 11   | 12     | 銅製品  | 耳環     | 2.55             | 2.75   | 0.5    | 完形(メッキは欠損)   |         | 2005141            |       | 石室内         |       |
|       | M02  | 11   | 12     | 銅製品  | 耳環     | (1.45)           | 1.85   | 0.2    | 一部欠損         |         | 2005141            |       | 石室床面まで      | 女門付近? |
|       | M03  | 11   | 12     | 鉄器   | 飾り金具   | (3.3)            | 4.5    | (1.15) | 若干欠損<br>笠釜部分 |         | 2005141            |       | 石室内         |       |
|       | M04  | 11   | 12     | 鉄器   | 革金具    | 2.5              | 1.65   | (1.2)  | 笠釜先欠損        |         | 2005141            |       | 石室床面まで      | 床面精査時 |
|       | M05  | 11   | 12     | 鉄器   | 革金具    | (2.35)           | 1.6    | 0.45   | 笠釜欠損         |         | 2005141            | 2区    | 石室内b        | 床面上   |
|       | M06  | 11   | 13     | 鉄器   | 鐙?     | (3.9)            | (2.3)  | 0.35   | 若干残存         |         | 2005141            |       | 石室内         |       |
|       | M07  | 11   | 13     | 鉄器   | 鐙?     | (4.95)           | 2.2    | 0.4    | 若干残存         |         | 2005141            |       | 石室床面まで      | 床面精査時 |
|       | M08  | 11   | 13     | 鉄器   | 刀      | 11.9             | 4.3    | 1.1    | 刃部残存         | 確認と接合   | 2005141<br>2004197 | 20T   | 石室内         |       |
|       | M09  | 11   | 13     | 鉄器   | 鏃?     | (5.8)            | (1.85) | 0.6    | 鏃身部の一部残存     | 確認出土    | 2004197            | 20T   | 石室内         |       |
|       | M10  | 11   | 13     | 鉄器   | 鏃      | (2.5)            | 0.6    | 0.3    | 頸部のみ残存       | 確認出土    | 2004197            | 20T   | 石室内         |       |
|       | M11  | 11   | 13     | 鉄器   | 鏃      | (4.9)            | 1.0    | 0.45   | 鏃身部のみ        | 確認出土    | 2004197            | 20T   | 石室内         |       |
|       | M12  | 11   | 13     | 鉄器   | 鏃      | (4.15)           | 1.25   | 0.65   | 鏃身部のみ        |         | 2005141            |       | 石室内         |       |
|       | M13  | 11   | 13     | 鉄器   | 鏃      | (6.2)            | 0.65   | 0.25   | 頸部のみ残存       |         | 2005141            | 2区    | 石室内b        | 床面上   |
|       | M14  | 11   | 13     | 鉄器   | 鏃      | (5.75)+<br>(2.5) | 0.95   | 0.3    | 頸部のみ         |         | 2005141            | 2区    | 石室b         | 床面上   |
|       | M15  | 11   | 14     | 鉄器   | 鏃      | (4.15)           | 0.55   | 0.35   | 基部のみ         | 確認出土    | 2005141            | 20T   | 石室内         |       |
|       | M16  | 11   | 14     | 鉄器   | 鏃      | (5.55)           | 0.4    | 0.45   | 頸部中央のみ       |         | 2005141            |       | 石室床面まで      | 床面精査時 |
|       | M17  | 11   | 14     | 鉄器   | 鏃      | (3.1)            | 0.45   | 0.45   | 基部のみ         | 確認出土    | 2004197            | 20T   | 石室内         |       |
|       | M18  | 11   | 14     | 鉄器   | 鏃      | (2.25)<br>(2.3)  | 0.5    | 0.4    | 基部のみ         |         | 2005141            |       | 石室内         |       |
|       | M19  | 11   | 14     | 鉄器   | 櫛?     | (4.3)            | 1.65   | 0.9    | 先端欠損         |         | 2005141            |       | 北半中央        | 遺構面まで |
|       | M20  | 11   | 14     | 鉄器   | 不明     | (4.3)            | 1.45   | (1.2)  |              |         | 2005141            | 2区    | 石室内b<br>掘南部 |       |
| S1    | 11   | 14   | 石器     | 石鏃   | (3.55) | 1.45             | 0.55   |        |              | 2005141 | 3区                 |       |             |       |
| S2    | —    | 14   | サヌカ石   |      |        |                  |        |        |              | 2005141 | 1区                 | 西周溝上  | 表土部分        |       |
| 東沢3号墳 | S3   | —    | 14     | サヌカ石 |        |                  |        |        |              | 2005141 |                    | 南東側溝中 | 埋土          |       |
| 東沢2号墳 | S4   | —    | 14     | サヌカ石 |        |                  |        |        |              | 2005141 |                    | 西周溝中  |             |       |

表2 東沢中遺跡出土遺物観察表

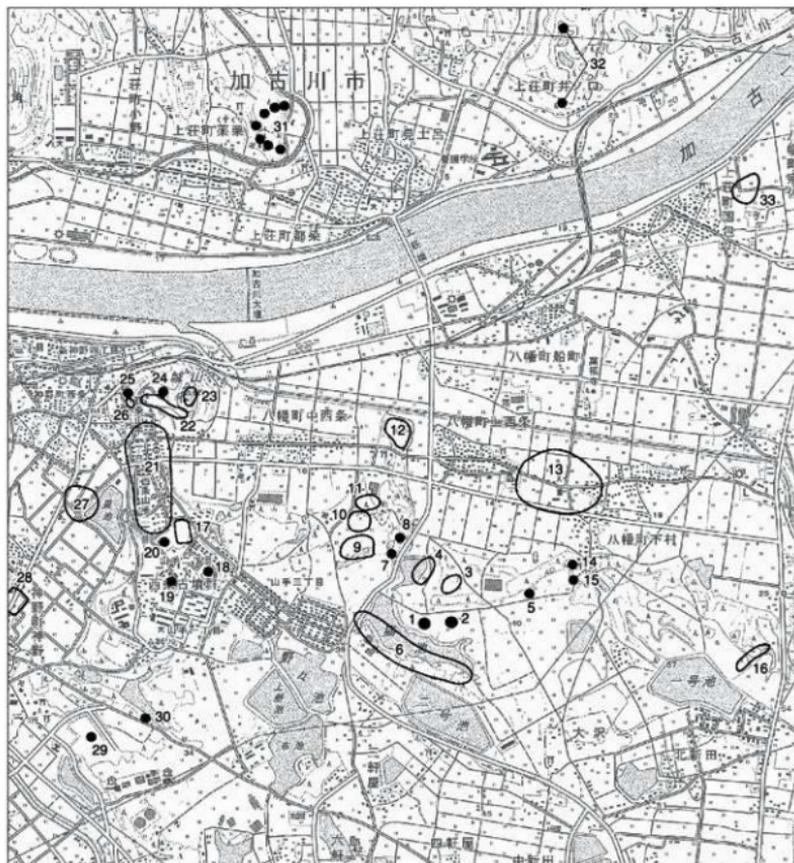
| 遺跡名   | 報告番号 | 図版番号 | 写真図版番号 | 種別   | 器種   | 法量(cm) |        |        | 残存他    | 備考 | 調査番号    | 出土地区 | 出土遺構            | 層位 |
|-------|------|------|--------|------|------|--------|--------|--------|--------|----|---------|------|-----------------|----|
|       |      |      |        |      |      | 口径     | 器高     | 底径     |        |    |         |      |                 |    |
| 東沢中遺跡 | 28   | 18   | 25     | 土師器  | 壺    | —      | (25.5) | —      | 体部約1/4 |    | 2005142 | Ⅱ区   | SP1028-1029     |    |
|       | 29   | 18   | 26     | 須恵器  | 杯蓋   | (13.4) | (2.85) | —      | 口縁1/12 |    | 2005142 | I区3  | SP1077          |    |
|       | 30   | 18   | 25     | 須恵器  | 台付壺? | —      | (3.05) | (11.3) | 口縁1/10 |    | 2005142 | Ⅱ-2区 | P1054<br>(SB06) |    |
|       | 31   | 18   | 26     | 須恵器  | 杯A   | —      | (1.1)  | (11.0) | 底部1/8  |    | 2005142 | Ⅱ-2区 | SD0004          |    |
|       | 32   | 18   | 26     | 土師器  | 杯    | —      | (3.1)  | —      | 体部破片   |    | 2005142 | Ⅱ-2区 | 遺構面まで           |    |
|       | 33   | 18   | 25     | 須恵器  | 台付壺  | —      | (3.15) | (9.62) | 口縁1/4  |    | 2005142 | Ⅱ区西端 | 旧レンチ部分          |    |
|       | 34   | 18   | 25     | 須恵器  | 長頸壺  | —      | (6.0)  | —      | 頸部のみ   |    | 2005142 | Ⅱ-1区 | SX1001          |    |
|       | 35   | 18   | 25     | 須恵器  | 壺    | —      | (5.4)  | —      | 肩部1/7  |    | 2005142 | Ⅱ区   | SX1001          |    |
|       | M21  | 18   | 26     | 鉄器   | 釘    | (3.55) | 0.8    | 0.35   | 先端部欠損  |    | 2005142 | Ⅱ区   | SD0002          |    |
|       | S5   | —    | 26     | サヌカ石 |      |        |        |        |        |    | 2005142 | Ⅱ-1区 | SX1001          |    |

圖 版



1.兵庫県の位置 2.加古川市の位置  
3.東沢古墳群・東沢中遺跡の位置

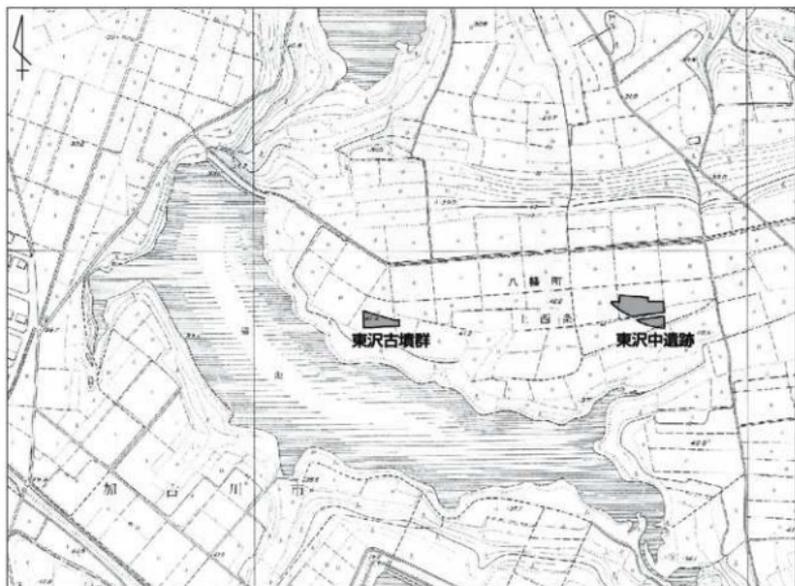
(S=1/200,000)



| No. | 遺跡名      | 所在地    | 時代・備考    |
|-----|----------|--------|----------|
| 1   | 東沢2・3号墳  | 八幡町上西条 | 古墳後期・本報告 |
| 2   | 東沢中遺跡    | 八幡町上西条 | 古墳後期・本報告 |
| 3   | 天王山古墳群   | 八幡町上西条 | 古墳後期     |
| 4   | 新池古墳群    | 八幡町上西条 | 古墳後期     |
| 5   | 池袋銅鐸出土地  | 八幡町上西条 | 弥生～古墳    |
| 6   | 關池遺跡     | 八幡町上西条 | 縄文～弥生    |
| 7   | 東沢遺跡     | 八幡町上西条 | 古墳       |
| 8   | 東沢古墳     | 八幡町上西条 | 古墳後期     |
| 9   | 上村池遺跡    | 八幡町上西条 | 奈良       |
| 10  | 古堂庵寺     | 八幡町上西条 | 奈良       |
| 11  | 成福寺古墳群   | 八幡町上西条 | 古墳後期     |
| 12  | 宮山遺跡・古墳群 | 八幡町下村  | 縄文～平安    |
| 13  | 下村遺跡     | 八幡町下村  | 弥生～平安    |
| 14  | 大田山遺跡    | 八幡町下村  | 弥生後期     |
| 15  | 下村古墳     | 八幡町下村  | 古墳後期     |
| 16  | 野村窯跡群    | 八幡町下村  | 奈良       |
| 17  | 西条庵寺     | 神野町西条  | 奈良       |

| No. | 遺跡名     | 所在地      | 時代・備考      |
|-----|---------|----------|------------|
| 18  | 行者塚     | 山手1丁目    | 古墳中期 前方後円墳 |
| 19  | 尼塚      | 山手1丁目    | 古墳中期 帆立貝式  |
| 20  | 人塚      | 山手1丁目    | 古墳中期 帆立貝式  |
| 21  | 西条古墳群   | 西条山手1丁目他 | 古墳前期～後期    |
| 22  | 神野城山遺跡  | 神野町西条城山  | 旧石器        |
| 23  | 西条城跡    | 八幡町中西条   | 室町         |
| 24  | 城山1号墳   | 八幡町中西条   | 古墳後期       |
| 25  | 西条土坑墓   | 神野町西条    | 中世         |
| 26  | 西条盛骨器群  | 神野町西条    | 中世         |
| 27  | 神野遺跡    | 神野町西条    | 縄文～平安      |
| 28  | 手末橋居跡   | 神野町西条    | 中世         |
| 29  | 神野大林窯跡群 | 神野町西条    | 古墳後期       |
| 30  | 神野北山遺跡  | 神野町西条    | 古墳後期       |
| 31  | 長慶寺山古墳群 | 上荘町栗栗    | 古墳 円墳      |
| 32  | 井ノ口古墳群  | 上荘町井ノ口   | 古墳 円墳      |
| 33  | 国包橋居跡   | 上荘町国包    | 中世         |

(S=1/25,000)



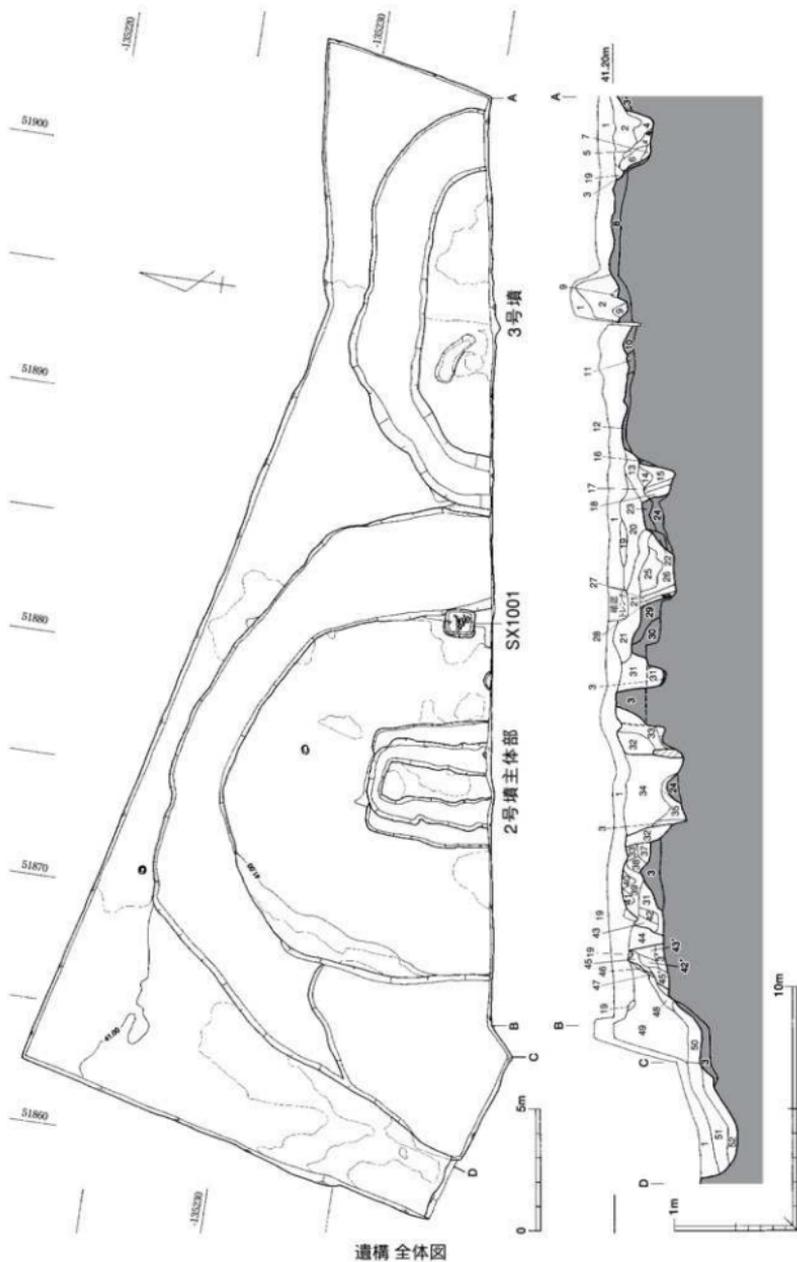
周辺の地形

(S=1/5,000)



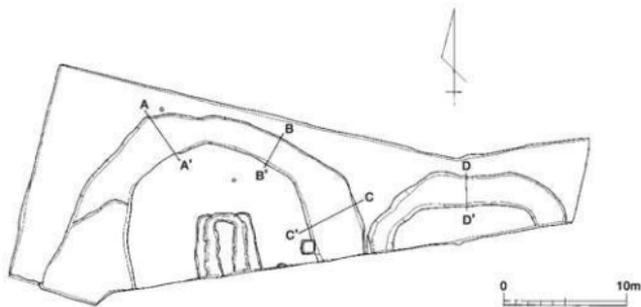
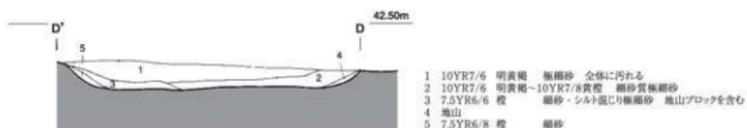
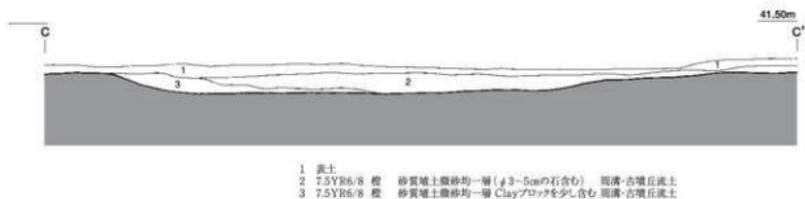
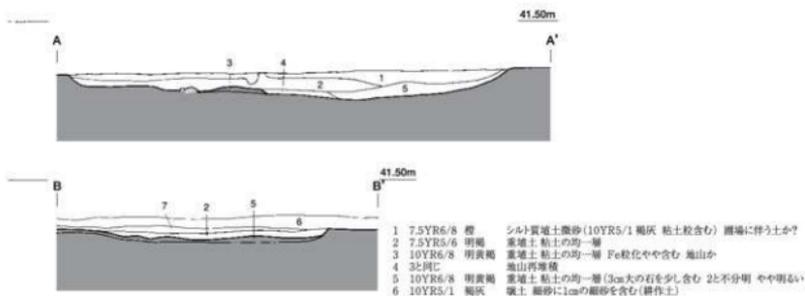
調査範囲

(S=1/2,000)

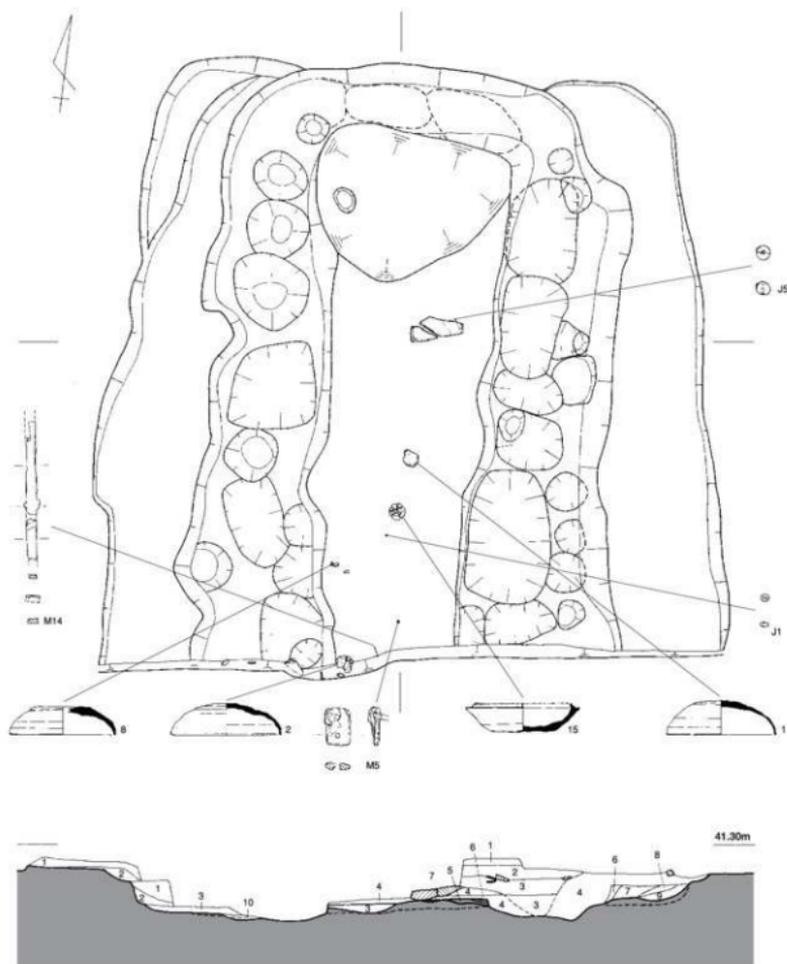


|     |          |                  |   |                 |
|-----|----------|------------------|---|-----------------|
| 1   | 10YR6/6  | 明黄褐              | 砂壤土(耕土)粗砂   |                 |
| 2   | 10YR4/4  | 褐                | シルト質砂質壤土(細砂)  |                 |
| 2'  | 10YR7/6  | 明黄褐              | 砂壤土( $\phi$ 1cm内外の礫を含む)                               |                 |
| 3   | 7.5YR5/6 | 明褐               | 埴壤土(地山)   |                 |
| 4   | 7.5YR5/8 | 明褐               | 砂質埴壤土( $\phi$ 2cm程度の礫少量含む)                            | 周溝内埋土I・IV       |
| 5   | 10YR5/8  | 黄褐               | 埴壤土(下面に $\phi$ 2~7cm大の礫含む)                            | 周溝内埋土II         |
| 6   | 7.5YR6/8 | 橙                | 埴壤砂土( $\phi$ 0.5cm大の小礫少量含む)                           | 周溝内埋土III        |
| 7   | 7.5YR5/8 | 明褐               | 埴壤土   | 周溝内埋土IV         |
| 8   | 7.5YR7/8 | 黄橙               | 壤質砂土( $\phi$ 0.5~1cm前後の小礫少量含む)地山                      |                 |
| 9   | 7.5YR5/8 | 明褐               | 壤質砂土極細砂 *地山土に堆積して古墳築造以前の層位の可能性残る                      |                 |
| 10  | 7.5YR6/8 | 橙                | 壤質土( $\phi$ 1cm前後の礫をわずかに含む) 地山上層の影響を受け攪乱される           |                 |
| 11  | 10YR4/6  | 褐                | 砂質土   | 地山上層の影響を受け攪乱される |
| 12  | 10YR4/6  | 褐                | 埴壤土細砂 地山  |                 |
| 13  | 10YR5/8  | 黄褐               | 埴壤土細砂( $\phi$ 0.5~1cm前後の小礫を含む)10YR5/4にぶい黄褐のブロック含む     |                 |
| 14  | 10YR4/4  | 褐                | シルト質埴壤土極細砂(シルト)                                       |                 |
| 15  | 10YR4/3  | にぶい黄褐            | シルト質埴壤土 シルト粘性強( $\phi$ 5cm程度の礫含む)                     |                 |
| 16  | 7.5YR5/6 | 明褐               | シルト質埴壤土極細砂 粘性強(2cm程度の礫含む)                             |                 |
| 17  | 7.5YR5/8 | 明褐               | シルト質埴壤土 シルト粘性強( $\phi$ 2cm程度の礫含む)                     |                 |
| 18  | 7.5YR5/8 | 明褐               | シルト質埴壤土 シルト粘性強( $\phi$ 1~3cm程度の礫多く含む)5YR4/8赤褐色のブロック含む |                 |
| 19  | 10YR5/6  | 黄褐               | 壤質砂土 粗砂 (2.5Y5/3黄褐のブロック混じる)                           |                 |
| 20  | 2.5Y4/4  | オリーブ褐            | 壤質砂土 粗砂 ( $\phi$ 2~7cm程度の礫多く含む)                       |                 |
| 21  | 10YR4/4  | 褐                | シルト質埴壤土 シルト粘性強  |                 |
| 22  | 10YR6/8  | 明黄褐              | シルト質埴壤土 シルト粘性強  |                 |
| 23  | 7.5YR5/6 | 明褐               | シルト質埴壤土細砂 シルト粘性弱                                      |                 |
| 23' | 7.5YR4/4 | 褐                | シルト質埴壤土細砂 シルト粘性強( $\phi$ 3cm程度の礫含む)                   |                 |
| 24  | 10YR5/6  | 黄褐~7.5YR5/6明褐に変化 | 礫多量に含む(地山)  |                 |
| 25  | 7.5YR5/6 | 明褐               | シルト質埴壤土 シルト粘性強  |                 |
| 26  | 10YR5/8  | 黄褐               | シルト質埴壤土 シルト粘性強(小礫わずかに含む)                              |                 |
| 27  | 10YR5/6  | 黄褐               | シルト質埴壤土 シルト粘性強  |                 |
| 28  | 7.5YR5/8 | 明褐               | シルト質埴壤土 シルト粘性強(地山の礫含む) 墳丘流土                           |                 |
| 29  | 7.5YR5/6 | 明褐               | シルト質埴壤土 シルト粘性弱 旧地表以下の堆積                               |                 |
| 30  | 10YR4/6  | 褐                | 埴壤土粗砂 ( $\phi$ 2cm前後の礫含む)旧地表以下の堆積                     |                 |
| 31  | 10YR4/6  | 褐                | シルト質埴壤土 シルト粘性強 上面に焼土を含む。 $\phi$ 2cm前後の礫を少量含む)         |                 |
| 31' | 10YR5/3  | にぶい黄褐            | シルト質埴壤土細砂 粘性弱   |                 |
| 32  | 10YR5/6  | 黄褐               | 壤質砂土 ( $\phi$ 1cm前後の礫多く含む) 掘方埋土裏込め土                   |                 |
| 33  | 7.5YR5/8 | 明褐               | 壤質砂土粗砂 (7.5YR6/1褐灰のブロック含む)掘方埋土裏込め土                    |                 |
| 34  | 7.5YR6/3 | にぶい褐             | 壤質砂土粗砂 ( $\phi$ 2~7cm程度の礫・遺物を含む)                      |                 |
| 35  | 10YR5/6  | 黄褐               | 壤質砂土粗砂 ( $\phi$ 10cm程度の礫含む)石材抜き取り後の埋土                 |                 |
| 36  | 7.5YR5/8 | 明褐               | 壤質砂土粗砂 ( $\phi$ 2cm内外の礫含む)                            |                 |
| 37  | 7.5YR4/6 | 褐                | シルト質埴壤土 シルト粘性強( $\phi$ 1cm内外の礫少量含む)3'に同じ)             |                 |
| 38  | 7.5YR6/8 | 橙                | 埴壤砂土粗砂  |                 |
| 39  | 10YR4/6  | 褐                | 埴壤砂土粗砂  |                 |
| 40  | 7.5YR6/1 | 褐灰               | 砂壤土粗砂 ( $\phi$ 2~5cmの礫含む)                             |                 |
| 41  | 10YR4/3  | にぶい黄褐            | 壤質砂土細砂 ( $\phi$ 2cm内外の礫含む)                            |                 |
| 42  | 10YR5/8  | 黄褐               | 埴壤砂土粗砂 細砂混じり極細砂                                       |                 |
| 43  | 10YR5/8  | 黄褐               | 埴壤砂土粗砂 細砂混じり極細砂                                       |                 |
| 44  | 10YR5/6  | 黄褐               | 壤質砂土細砂 ( $\phi$ 1~5cm内外の礫多く含む)                        |                 |
| 45  | 10YR7/6  | 明黄褐              | 埴壤砂土粗砂 極細砂 墳丘盛土                                       |                 |
| 45' | 10YR7/6  | 明黄褐              | 埴壤砂土粗砂 極細砂 墳丘盛土 やや暗調                                  |                 |
| 46  | 10YR5/3  | にぶい黄褐            | 埴壤砂土粗砂 a層 墳丘土の旧地表                                     |                 |
| 47  | 10YR6/4  | にぶい黄褐            | 埴壤砂土粗砂  |                 |
| 48  | 10YR5/6  | 黄褐               | 埴壤砂土粗砂 ( $\phi$ 1cm内外の礫少量含む) 墳丘流土 極細砂                 |                 |
| 49  | 10YR6/8  | 明黄褐              | 埴壤砂土粗砂 7.5YR6/1褐灰のブロック混じる 基本的に2層と同じ                   |                 |
| 50  | 10YR5/8  | 黄褐               | 埴壤砂土粗砂 ( $\phi$ 1cm内外の礫少量含む) 周溝内埋土 細砂                 |                 |
| 51  | 7.5YR5/8 | 明褐               | 砂壤土粗砂 基本的に2層と同じ                                       |                 |
| 52  | 7.5YR4/6 | 褐                | 砂壤土粗砂 ( $\phi$ 1~5cmの礫含む) 周溝埋土                        |                 |

調査区 南壁 土層名



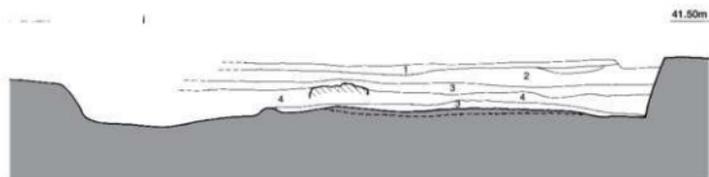
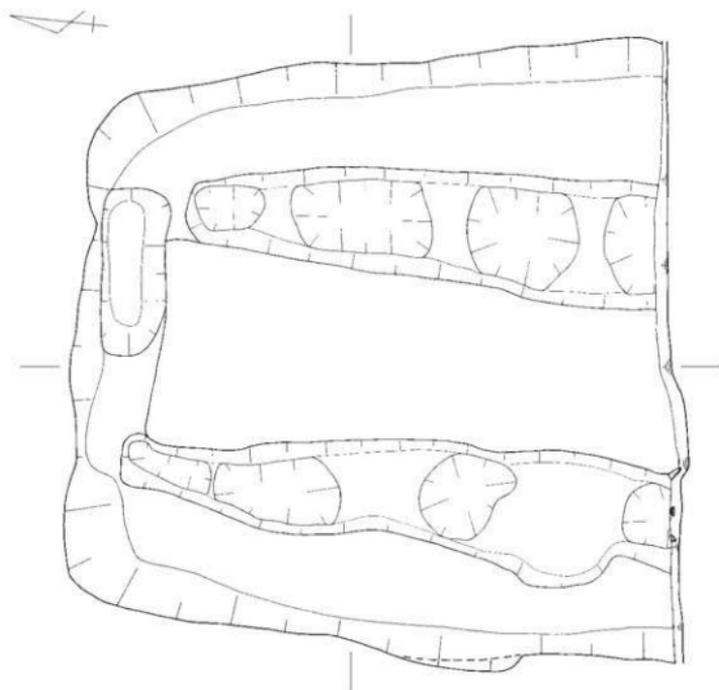
2号墳・3号墳周溝



- |    |          |   |
|----|----------|---|
| 1  |          | 表土  |
| 2  | 7.5YR7/6 | 橙 細砂質粘層砂                                  |
| 3  | 7.5YR6/6 | 橙 Mn黄 粒混じり 細砂質粘層砂 石材抜き取り後入った土             |
| 4  | 10YR5/6  | 黄褐色 粘層砂                                   |
| 5  | 7.5YR6/8 | 橙 粘層砂                                     |
| 6  | 7.5YR6/8 | 橙 細砂                                      |
| 7  | 5YR5/8   | 明赤褐 シルト質粘層砂 細砂含む 4.3cm内外円礫入る              |
| 8  | 5YR5/6   | 明赤褐 粘層砂混じりシルト 4.5cm内外の礫多し                 |
| 9  | 5YR5/8   | 明赤褐 細砂混じり粘層砂シルト                           |
| 10 | 10YR7/4  | にじみ黄褐 ~7.5YR7/4に近しい橙 床面上層シルト 床面上に最初に入れた土か |



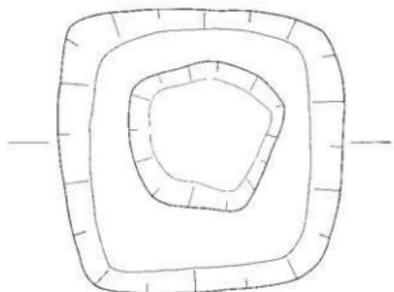
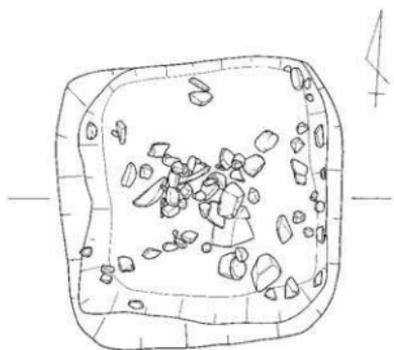
2号墳 主体部



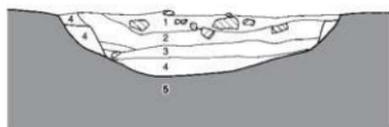
- 1 7.5YR6/1 褐色 シルト質壤土微砂 炭粒少量含む 天井石除去後流入土  
 2 2.5Y7/2 淡黄 シルト質壤土微砂均一層 天井石除去後流入土  
 3 10YR7/6 明黄褐 砂質粘壤土微砂均一層 (φ1-3cmの小石あり) 天井石除去後流入土 Ma集積含む  
 4 10YR7/6 明黄褐 砂質粘壤土微砂均一層 (遺物含む) 床面直上堆積

0 2m

2号墳 墓壇



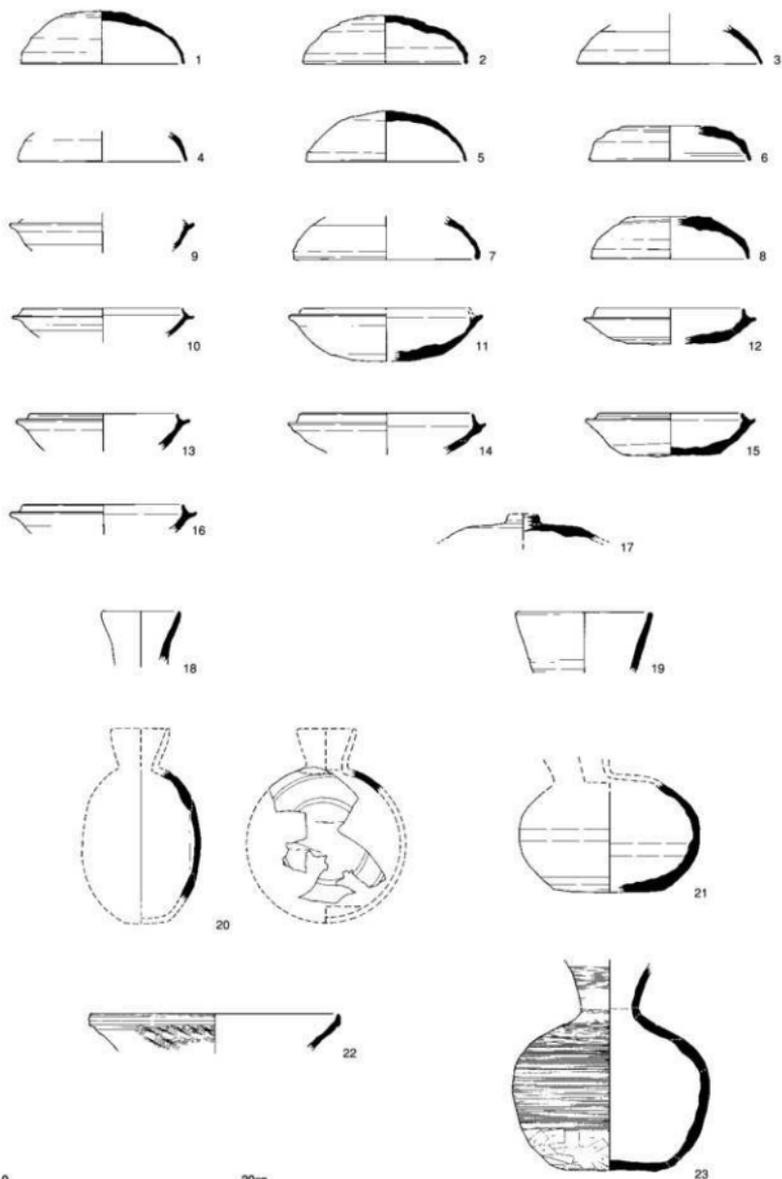
42.30m



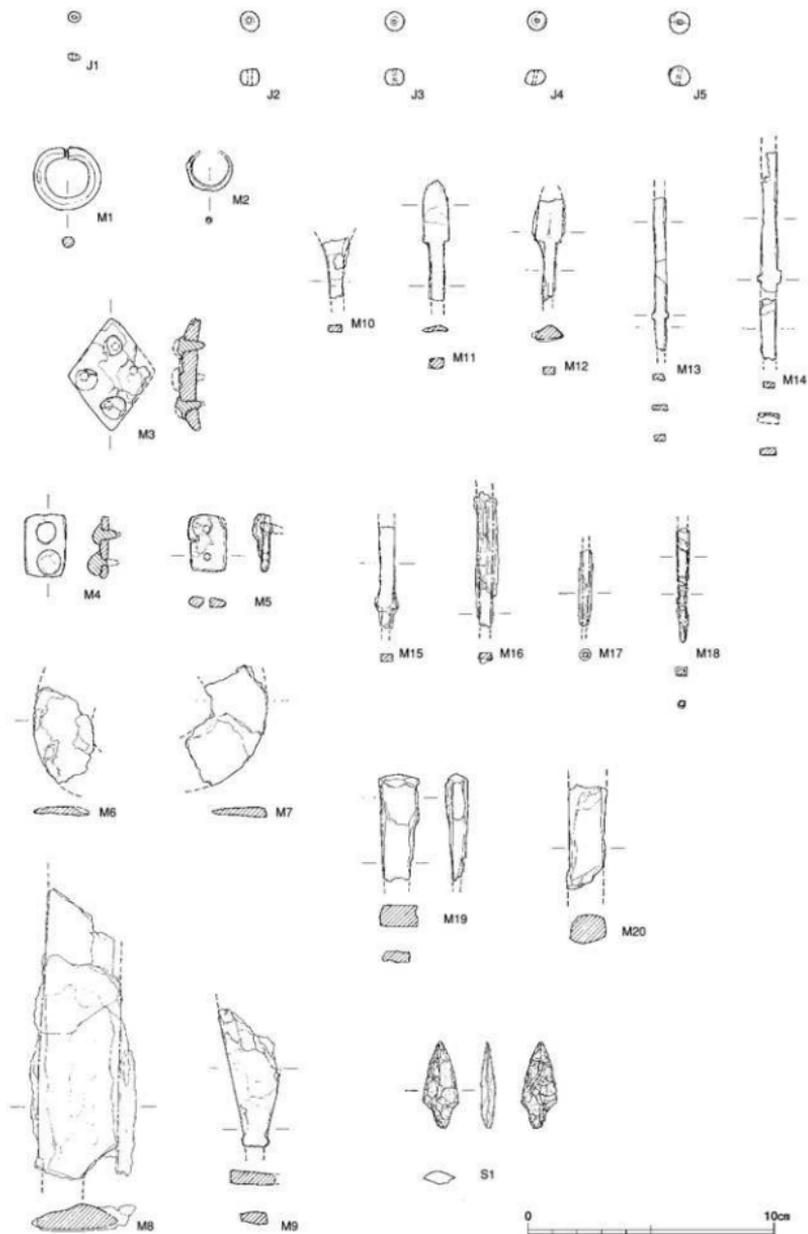
- 1 7.5YR4/6 雑 シルト極細砂～細砂
- 2 7.5YR7/6 雑極細砂～細砂 12%のやわ粘性泥 炭化物(炭)を多く含む
- 3 7.5YR6/6 雑 極細砂(φ0.5cm大の小礫をわずかに含む、2~3cm大の礫を多く含む)
- 4 10YR5/6 黄雑 極細砂 わずかに粗砂を含む
- 5 7.5YR6/8 雑 シルト混じり 極細砂～細砂、粗砂を含む



SX1001

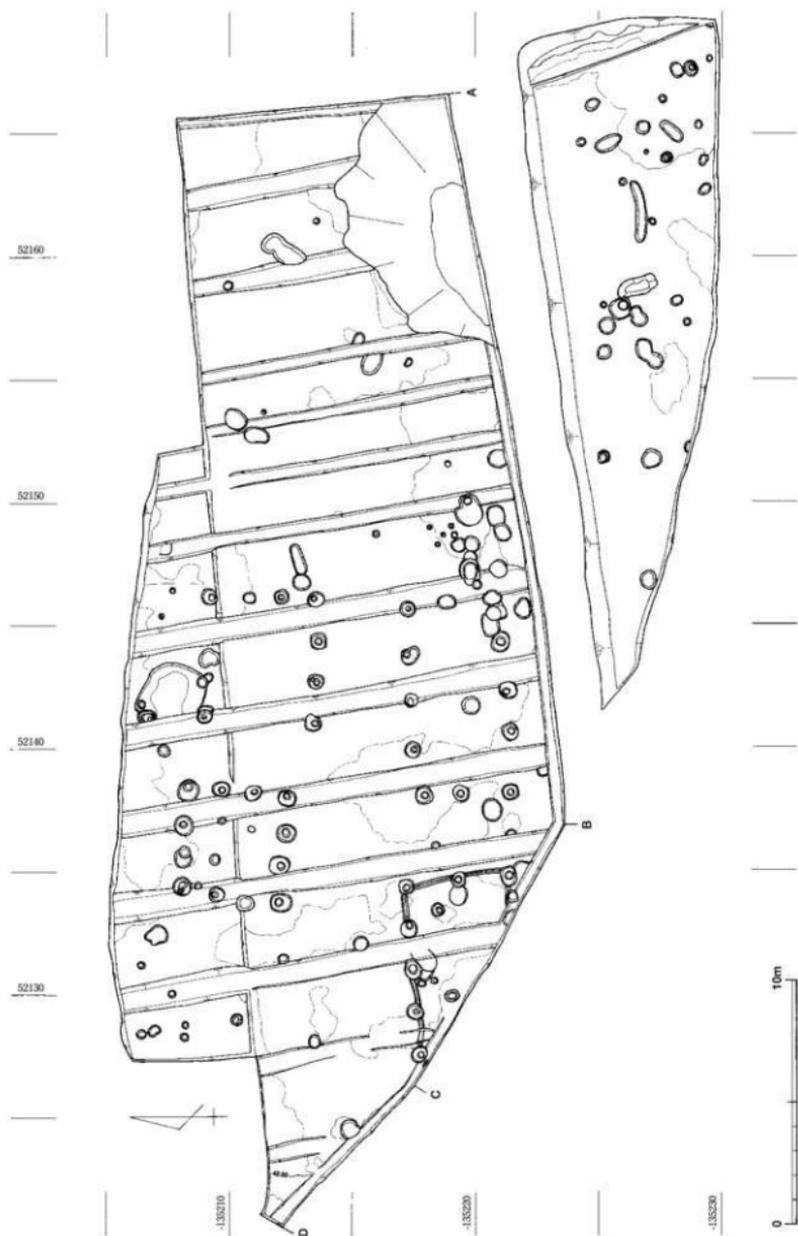


出土遺物 壺

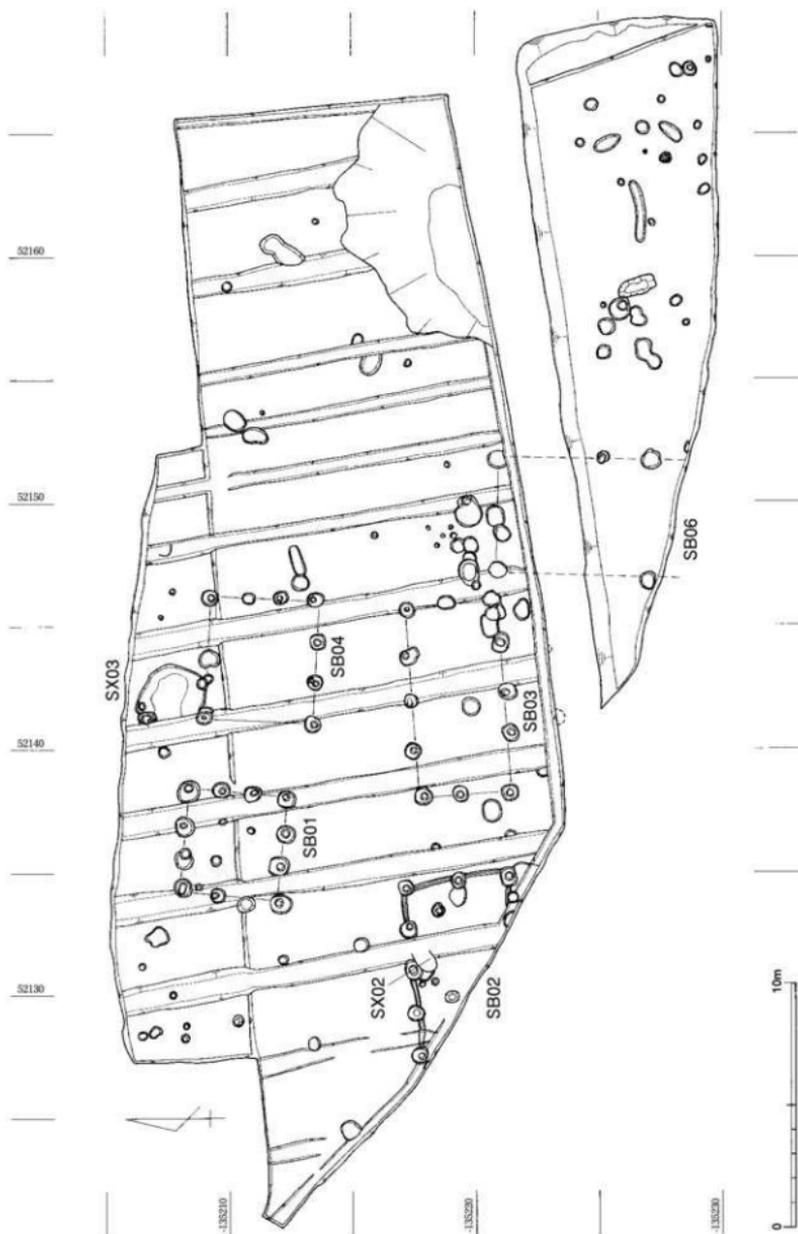


出土遺物 鑫

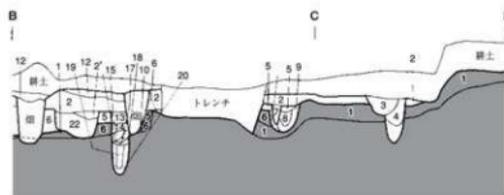
0 10cm



遺跡全体図



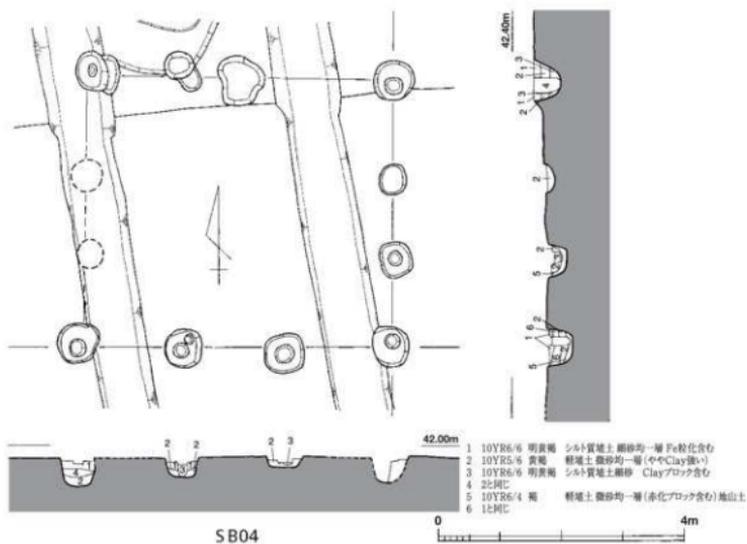
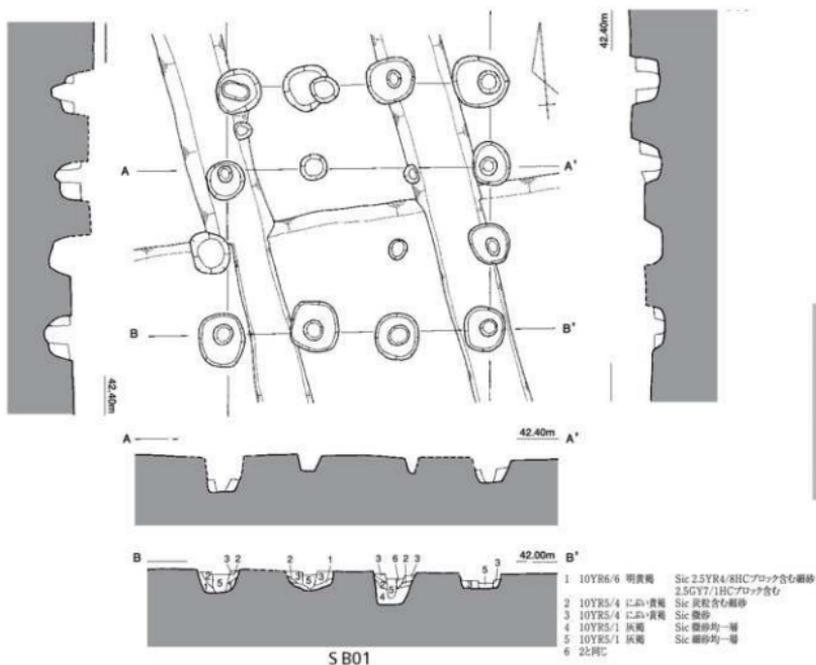
遺溝全体図

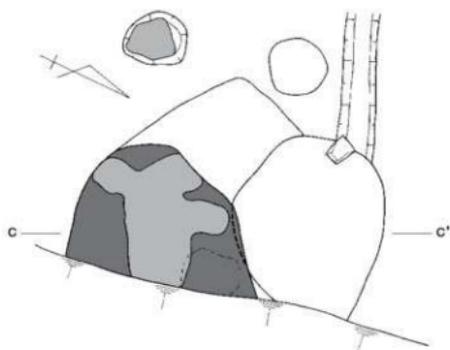
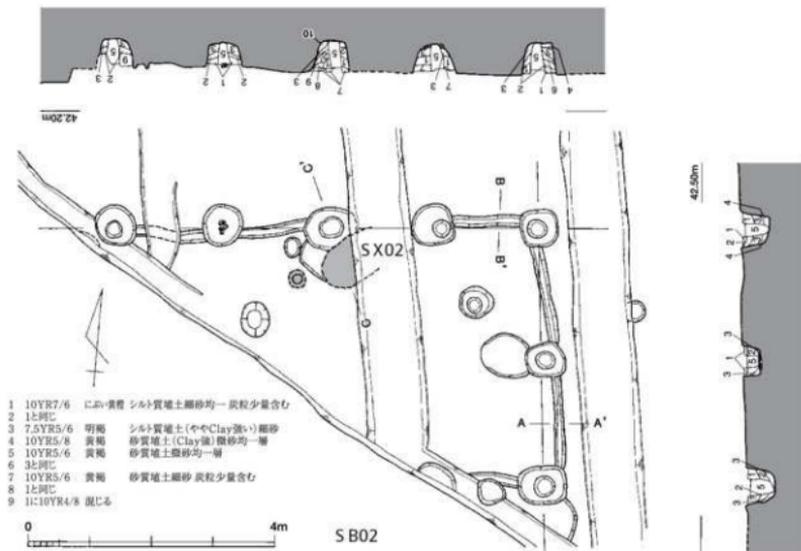


|     |           |       |  |
|-----|-----------|-------|--|
| 1   | 10VR6/6   | 明黄褐   | 砂質塩土微砂 有機物少量含む Mn 低体 Clay 粒あり          |
| 2   | 10VR7/4   | にぶい黄橙 | 砂質塩土微砂均一層 一部酸化ありシルト(細砂混じり)             |
| 3   | 10VR6/1   | 褐灰    | 砂質塩土微砂 上半土酸化                           |
| 4   | 10VR6/3   | にぶい黄橙 | 軽塩土細砂均一層 極細砂混じりシルト                     |
| 5   | 7.5YR7/3  | にぶい橙  | シルト溜りに堆積する<br>よりMn酸化が少ない               |
| 6   |           |       | 砂質塩土微砂均一層(硬塩埋土)                        |
| 7   | 10VR6/3   | にぶい黄橙 | 砂質塩土微砂均一層                              |
| 8   | 10VR6/3   | にぶい黄橙 | 軽塩土 細砂均一層                              |
| 9   | 8と同じ      |       | 8に比して土壌化やや増進                           |
| 10  | 10VR6/2   | 灰黄褐   | 砂質塩土 微砂均一層                             |
| 11  | 10VR6/1   | 褐灰    | 塩埋土 塩化進行土層(旧農道埋土)                      |
| 12  | 耕土下土壌     | 湿土    | 田床土 鉄分累積                               |
| 13  | 7.5YR6/1  | 褐灰    | 塩埋土 微砂 灰砂少量含む                          |
| 14  | 7.5YR6/1  | 褐灰    | 塩埋土 微砂(やや粗い) 植生根あり                     |
| 15  | 7.5YR6/1  | 褐灰    | 軽塩土 粗砂にClayやや混入                        |
| 16  | 15と同じ     |       |  |
| 17  | 15と同じ     |       |  |
| 18  | 7.5YR5/2  | 灰褐    | シルト質塩土 細砂均一層                           |
| 19  | 7.5YR5/2  | 灰褐    | シルト質塩埋土 細砂均一層 柱層                       |
| 20  | 10VR6/2   | 灰黄褐   | 細砂 軽塩土均一層                              |
| 21  | 2と同じ      |       | 極細砂混じりシルト                              |
| 22  | 10VR6/3   | にぶい黄橙 | 細砂シルト質塩土均一層                            |
| 23  | 10VR7/6   | 明黄褐   | 明黄褐 - 7/4 にぶい黄橙 2より土壌化が著しい 細砂混じり極細砂シルト |
| 24  | 10VR7/6   | 明黄褐   | 細砂                                     |
| 25  | 12と同じ     |       |  |
| 26  | 10VR6/2   | 灰黄褐   | 細砂 シルト質塩埋土                             |
| 27  | 7.5YR5/1  | 褐灰    | 細砂塩埋土 灰砂含む                             |
| 28  | 5YR6/4    | にぶい黄橙 | 28砂質塩土 極細砂 植物根由来 灰色シルト・ブロック含む          |
| 29  | 7.5YR6/8  | 橙     | 灰色シルト(5YR5/1) 混じり極細砂(11層に似る)           |
| 30  | 腐の濃       |       |  |
| 31  | 10VR7/6   | 明黄褐   | 2より土壌化していない。23の影響をうける シルト              |
| 32  | 10VR6/6   | 明黄褐   | 極細砂混じりシルト Mn 低あり                       |
| 33  | 10VR6/6   | 明黄褐   | 砂質塩土細砂シルト質極細砂 細砂混じる 2と同じ               |
| 33* | 36, 39に近い | 同一層   |  |
| 34  | 33と同じ     |       | シルト(極細砂を含む)                            |
| 35  | 10VR6/6   | 明黄褐   | 極細砂混じりシルト Mn 低あり                       |
| 36  | 10VR6/4   | にぶい黄橙 | シルト 細砂混じり Mn 低多                        |
| 37  | 2.5Y7/4   | 浅黄    | 薬塩土微砂均一層 (Clay強い) 極細砂シルト               |
| 38  | 7.5YR5/1  | 褐灰    | 砂質塩土微砂均一層                              |
| 39  | 10VR7/6   | 明黄褐   | 砂質塩土微砂均一層 (Clay強い) 38と同じ細砂混じりシルト       |
| 40  | 10VR6/6   | 明黄褐   | Mn 低極細砂混じり極細砂 33に近い                    |
| 41  | 10VR6/3   | にぶい黄橙 | 砂質塩土微砂均一層(黄色調)                         |
| 42  | 10VR6/4   | にぶい黄橙 | 極細砂混じりシルト                              |
| 43  | 10VR6/4   | にぶい黄橙 | 極細砂質シルト                                |
| 44  | 10VR7/4   | にぶい黄橙 | 極細砂シルト やや増進                            |
| 45  | 10VR7/8   | 黄橙    | 地山 極細砂質シルト                             |



調査区 南壁 土層断面図





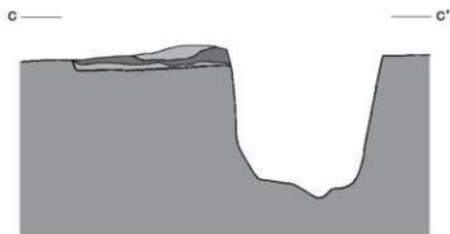
壁溝土層断面

- 10YR7/6 明黄褐色 壤質砂土微砂均一土



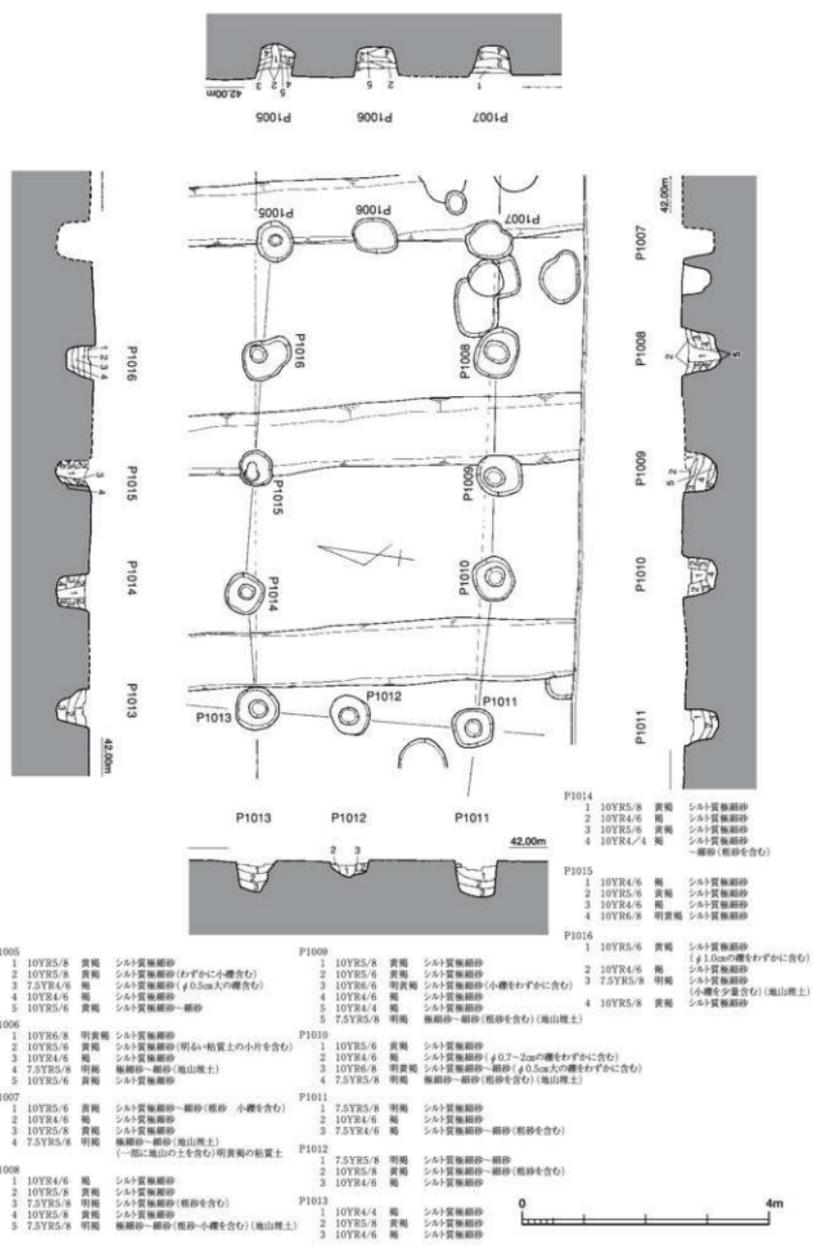
■ 焼土

■ 炭層



焼土(SX02)

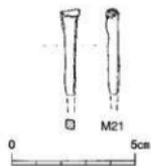
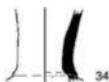
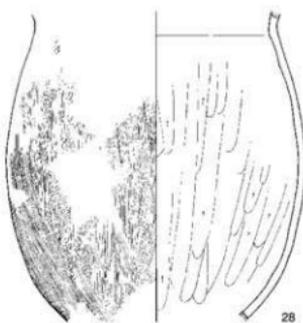
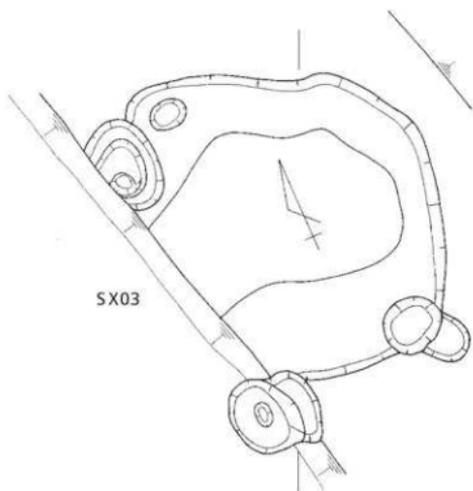
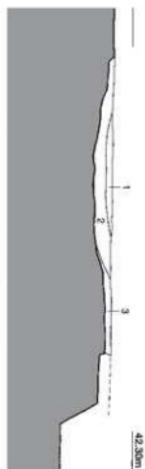




|              |                |                        |  |              |                |                              |  |
|--------------|----------------|------------------------|--|--------------|----------------|------------------------------|--|
| <b>P1005</b> | 1 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂                |  | <b>P1009</b> | 1 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 2 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂(わずかに小礫を含む)     |  |              | 2 10YR5/6 黄褐色  | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 3 7.5YR4/6 褐色  | シルト質粘細砂(φ0.5cm大の礫を含む)  |  |              | 3 10YR6/6 明黄褐色 | シルト質粘細砂(小礫をわずかに含む)           |  |
|              | 4 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                |  |              | 4 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 5 10YR5/6 黄褐色  | シルト質粘細砂-細砂             |  |              | 5 10YR4/4 褐色   | シルト質粘細砂                      |  |
| <b>P1006</b> | 1 10YR6/8 明黄褐色 | シルト質粘細砂                |  |              | 5 7.5YR5/8 明褐色 | 粘細砂-細砂(粗砂を含む)(地山裡土)          |  |
|              | 2 10YR5/6 黄褐色  | シルト質粘細砂(明い粘質土の小片を含む)   |  | <b>P1010</b> | 1 10YR5/6 黄褐色  | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 3 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                |  |              | 2 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂(φ0.7-2cmの礫をわずかに含む)   |  |
|              | 4 7.5YR5/8 明褐色 | 粘細砂-細砂(地山裡土)           |  |              | 3 10YR6/8 明黄褐色 | シルト質粘細砂-細砂(φ0.5cm大の礫をわずかに含む) |  |
|              | 5 10YR5/6 黄褐色  | シルト質粘細砂                |  |              | 4 7.5YR5/8 明褐色 | 粘細砂-細砂(粗砂を含む)(地山裡土)          |  |
| <b>P1007</b> | 1 10YR5/6 黄褐色  | シルト質粘細砂-細砂(粗砂 小礫を含む)   |  | <b>P1011</b> | 1 7.5YR5/8 明褐色 | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 2 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                |  |              | 2 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 3 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂                |  |              | 3 7.5YR4/6 褐色  | シルト質粘細砂-細砂(粗砂を含む)            |  |
|              | 4 7.5YR5/8 明褐色 | 粘細砂-細砂(地山裡土)           |  |              |                |                              |  |
|              |                | (一部に地山の土を含む)明黄褐色の粘質土   |  | <b>P1012</b> | 1 7.5YR5/8 明褐色 | シルト質粘細砂-細砂                   |  |
| <b>P1008</b> | 1 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                |  |              | 2 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂-細砂(粗砂を含む)            |  |
|              | 2 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂                |  |              | 3 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 3 7.5YR5/8 明褐色 | シルト質粘細砂(粗砂を含む)         |  | <b>P1013</b> | 1 10YR4/4 褐色   | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 4 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂                |  |              | 2 10YR5/8 黄褐色  | シルト質粘細砂                      |  |
|              | 5 7.5YR5/8 明褐色 | 粘細砂-細砂(粗砂-小礫を含む)(地山裡土) |  |              | 3 10YR4/6 褐色   | シルト質粘細砂                      |  |

S B03

1 10YR7/4 土壌(遺物埋蔵層)の土質標準色  
2 10YR7/4 土壌(遺物埋蔵層)の土質標準色  
3 2.5Y7/2 灰層



出土遺物

# 写 真 图 版



東沢2号墳(右)・3号墳(左)



東沢2号墳・3号墳全景（東から）



同（西から）



東沢2号墳・3号墳全景（東から）



東沢2号墳全景（北から）



2号墳 全景  
(西から)



同 主体部  
(南から)



同 主体部  
(南東から)

2号墳 床面  
遺物出土状況  
(東から)



同 須恵器杯・  
ガラス小玉  
出土状況



同 石室掘方  
(南から)





3号墳全景（東から）



3号墳周溝（北から）



2号墳周溝 堆積状況



3号墳周溝（北から）



焼土坑（南から）



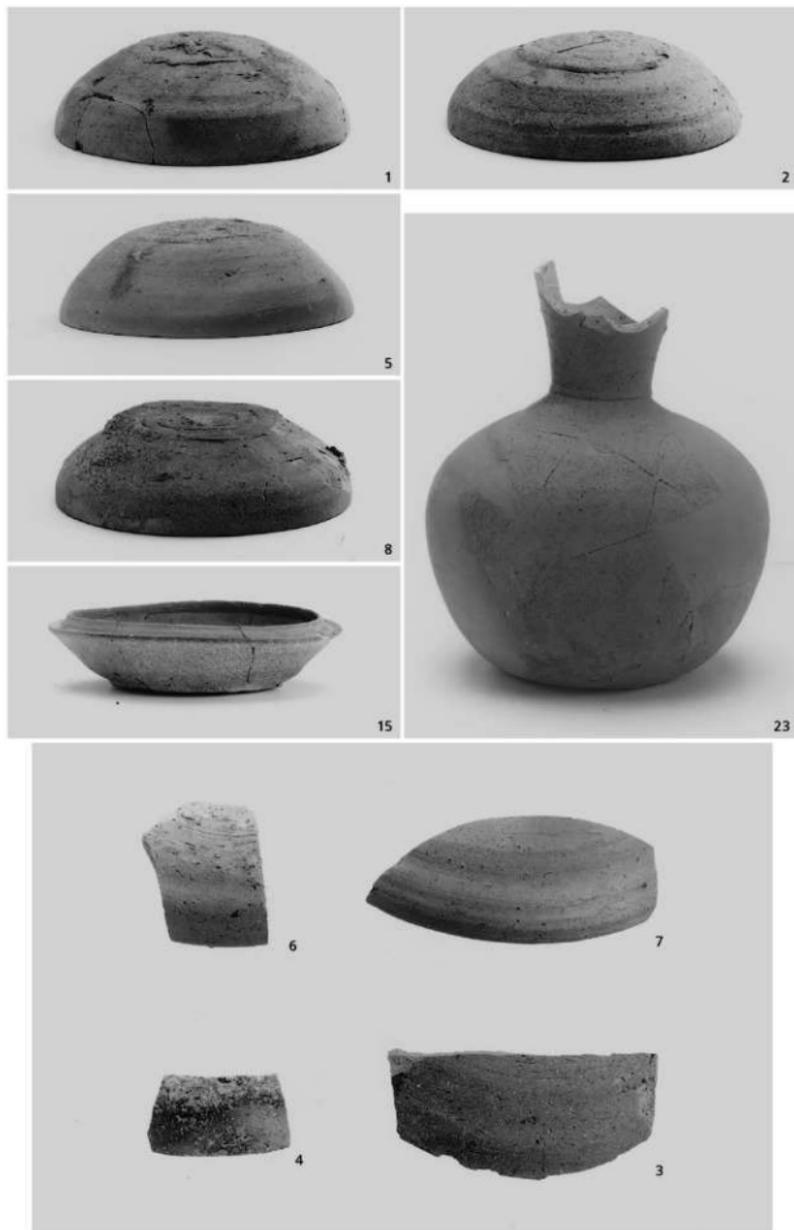
焼土坑 完掘状況  
（南から）



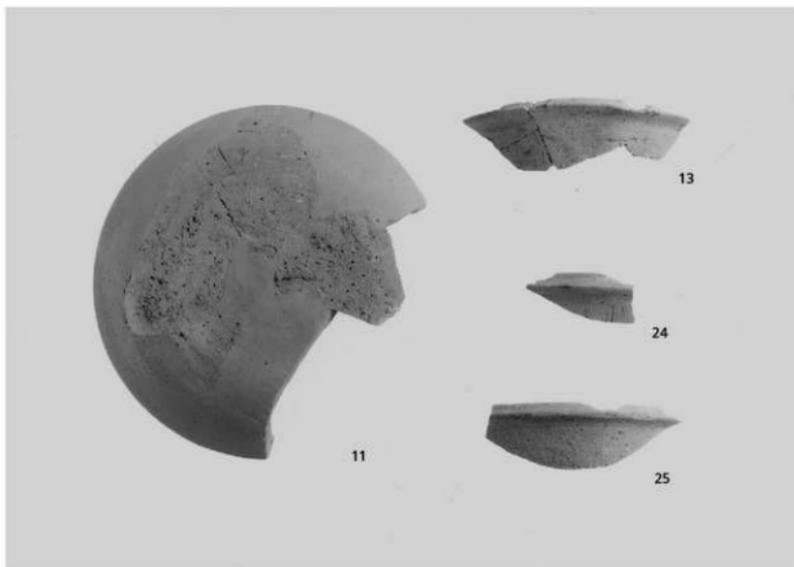
調査前の状況



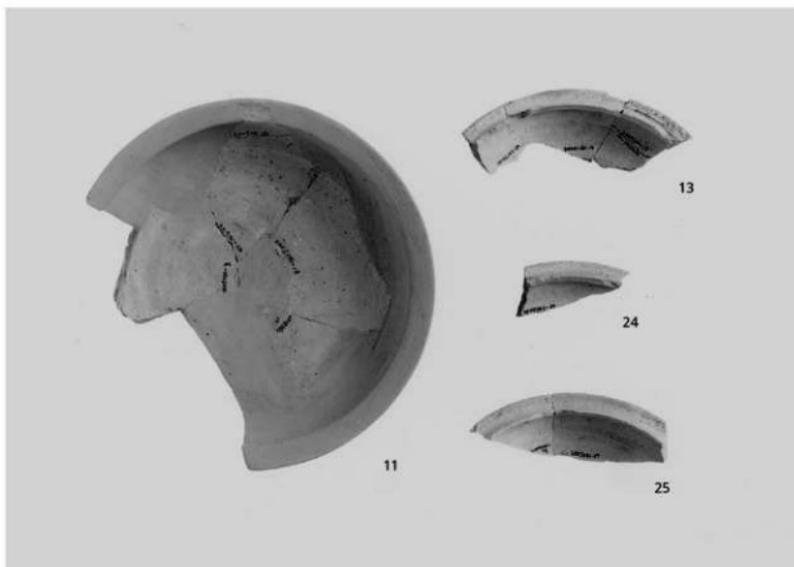
作業の状況



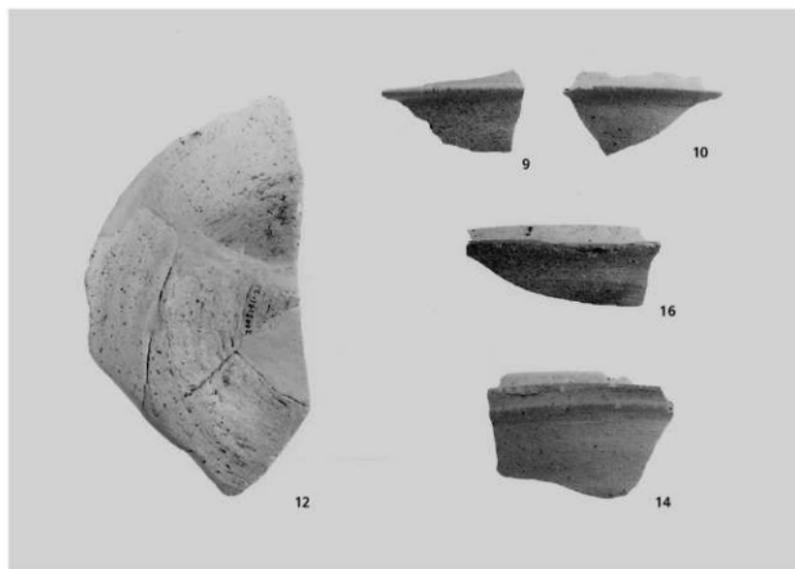
東沢2号墳 出土遺物(1)・3号墳 出土遺物



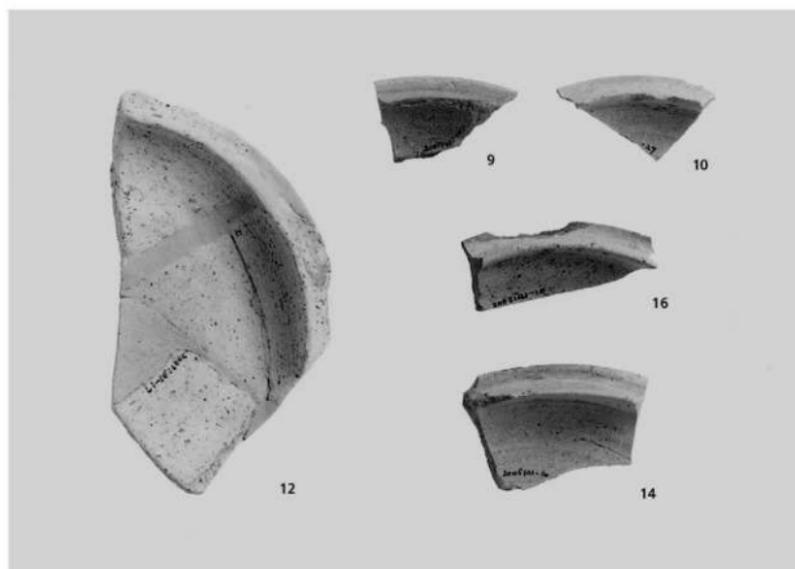
(外面)



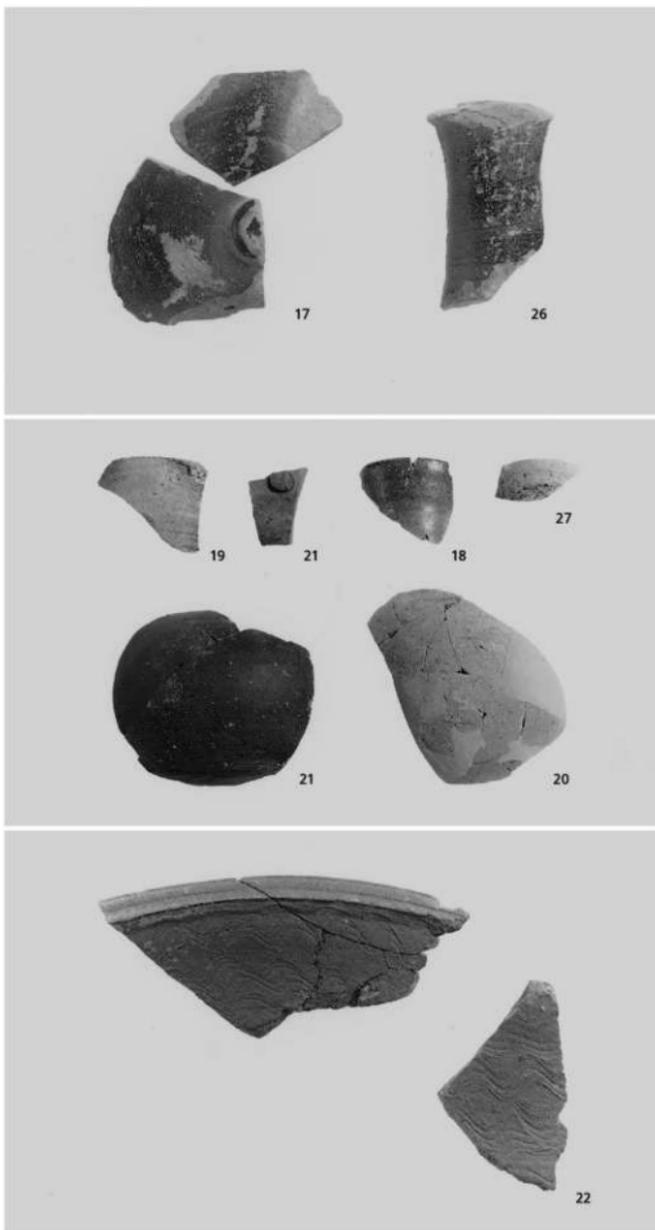
(内面)



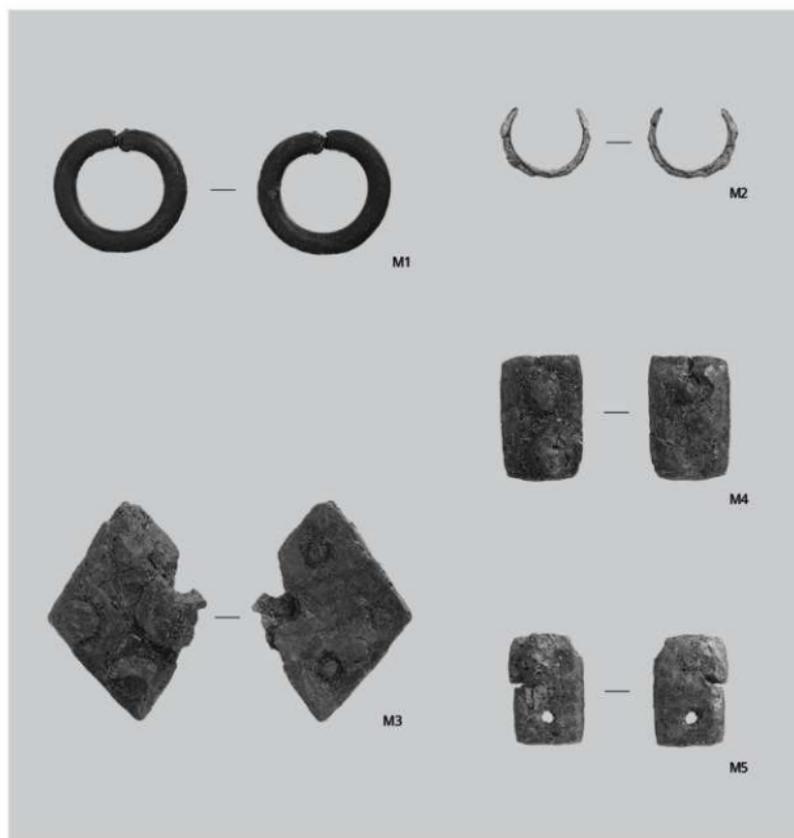
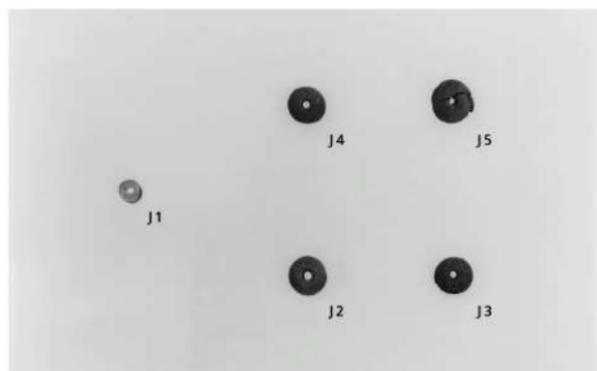
(外面)



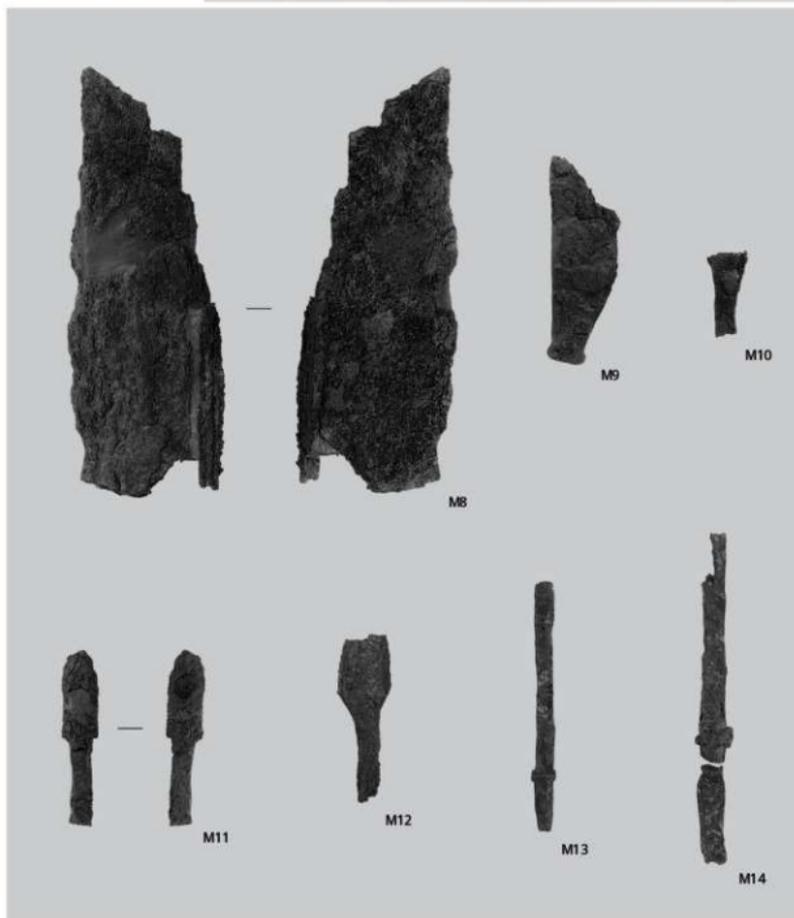
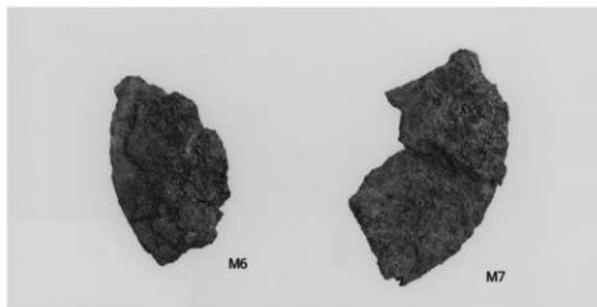
(内面)



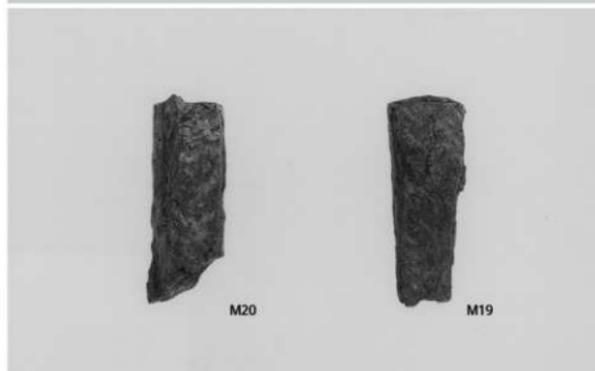
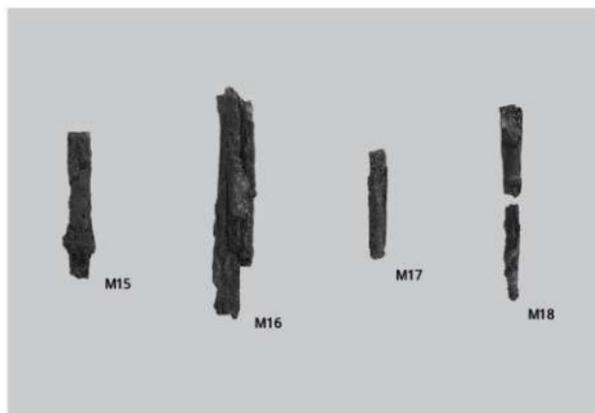
東沢2号墳 出土遺物(4)



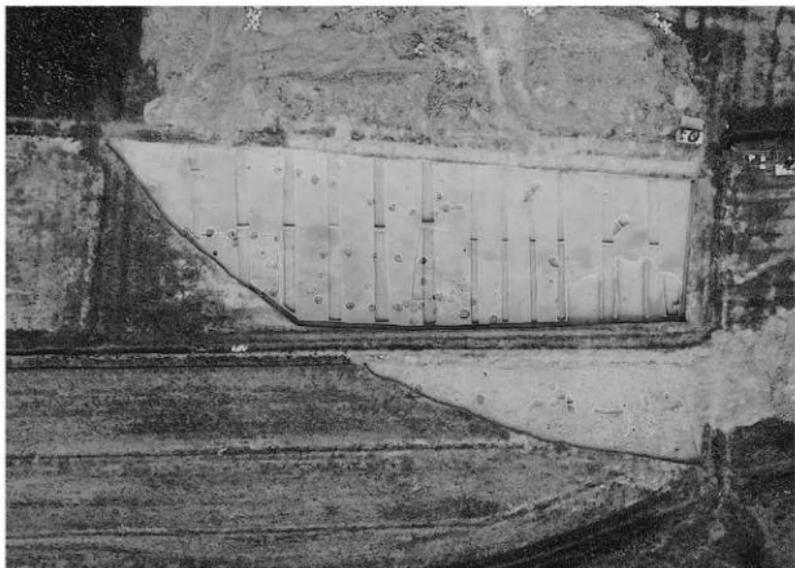
東沢2号墳 出土遺物(5)



東沢2号墳 出土遺物(6)



東沢2号墳 出土遺物(7)



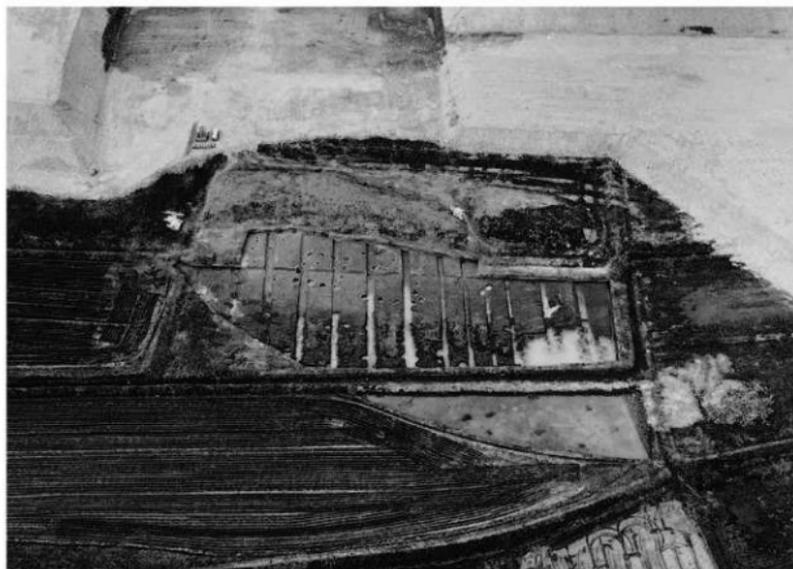
東沢中遺跡 全景（南から）



同 畝区（南から）



調査区 全景（東から）



同 遺区 全景（南から）



調査区 全景（西から）



竈区 全景（東から）



竈区 全景（東から）



轟区 近接 (東から)



同 (西から)



同 西半部 (西から)

蠡区 全景  
(東から)



同 近接  
(東から)



SB01・SB04  
(東から)





墓区 全景 (東から)

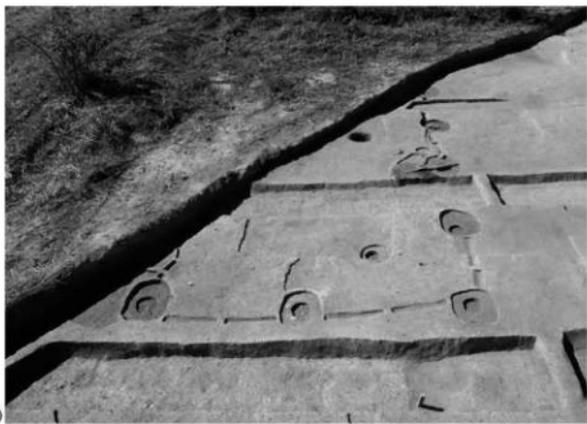


SB01 (東から)

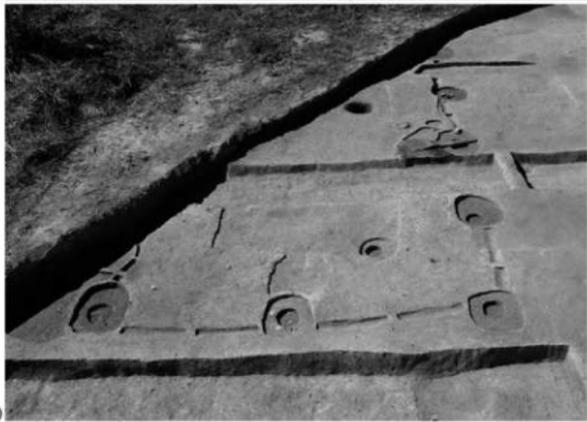


SB01 (北から)

SB02 (東から)



SB02 (東から)



SB02 壁溝





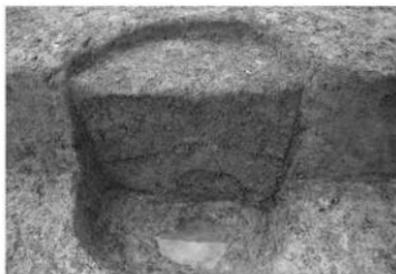
SB03 (東から)



SB04 (北から)



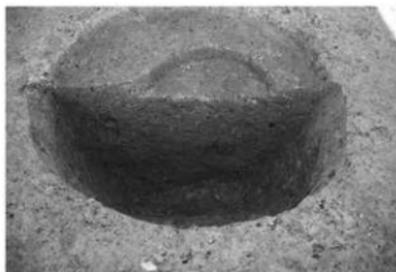
SB04 (東から)



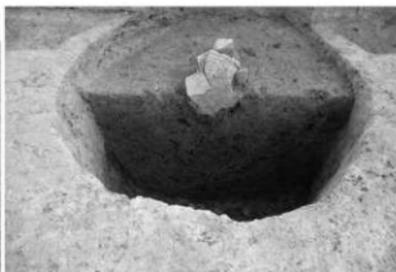
SB01 柱穴 a



SB01 柱穴 b



SB02 柱穴 a



SB02 柱穴 b



SB03 柱穴 a



SB03 柱穴 b



SB03 柱穴 c



SB04 柱穴 a



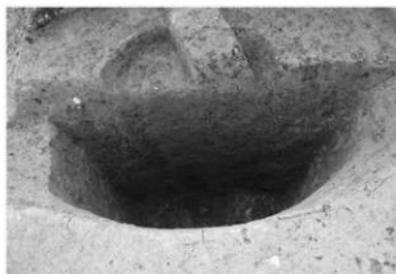
SB04 柱穴 b



SB05 柱穴 a



SB05 柱穴 b



SB05 柱穴 c



調査前の状況



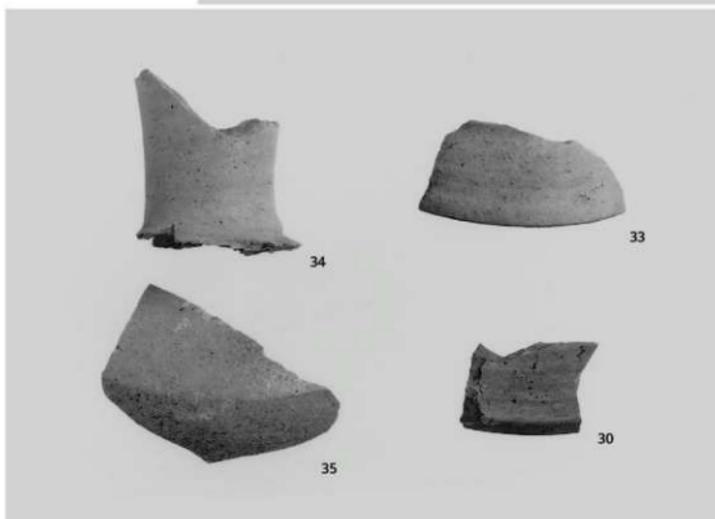
調査前 遠景



竈区 南壁



28



34

33

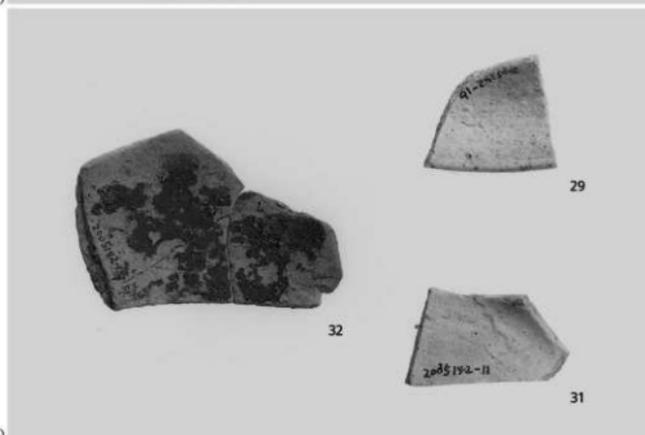
35

30

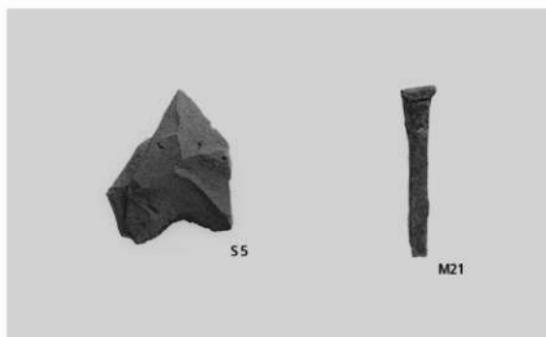
東沢中遺跡 出土遺物(1)



(外面)



(内面)



東沢中遺跡 出土遺物 2)

# 報告書抄録

| ふりがな         | ひがしさわこふんぐん・ひがしさわなかいせき   |        |       |                        |           |  |   |                                 |
|--------------|---|--------|-------|------------------------|-----------|--|---|---------------------------------|
| 書名           | 東沢古墳群・東沢中遺跡   |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 副書名          | (主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書                                     |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| シリーズ名        | 兵庫県文化財調査報告  |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| シリーズ番号       | 第389冊   |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 編著者名         | 西口圭介  |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 編集機関         | 兵庫県立考古博物館   |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 所在地          | 〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号 TEL 079-437-5589                               |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 発行機関         | 兵庫県教育委員会  |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 所在地          | 〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通5丁目10番1号 TEL 078-341-7711                            |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 発行年月日        | 西暦 2011年3月24日   |        |       |                        |           |  |   |                                 |
| 所収遺跡名        | 所在地   | コード    |       | 北緯                     | 東経        | 調査期間   | 調査面積<br>m <sup>2</sup>  | 調査原因                            |
|              |   | 市町村    | 遺跡番号  |                        |           |  |   |                                 |
| 東沢古墳群2号墳・3号墳 | 加古川市八幡町上西条  |        | 28210 | 34°46'48"              | 134°54'0" | 確認調査(2004197)<br>2004年9月13日～11月26日<br>本発掘調査(2005142)<br>2005年9月14日～11月4日 | 確認調査(2004197)<br>2,263m <sup>2</sup><br>本発掘調査(2005141)<br>503m <sup>2</sup> | (主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う事前調査 |
| 所収遺跡名        | 種別  | 主な時代   |       | 主な遺構                   |           | 主な遺物   |   | 特記事項                            |
| 東沢古墳群2号墳・3号墳 | 古墳  | 古墳時代後期 |       | 横穴式石室1基<br>焼土坑1基<br>周溝 |           | 須恵器杯・蓋・平版・提瓶<br>耳環・馬具・鉄鏃・玉類  |   |                                 |
| 要約           | 段丘開折谷に面して築かれた群集墳。2号墳の主体部は片袖の横穴式石室であるが、用材をすべて抜き取られている。須恵器杯・馬具・玉類が床面より出土している。 |        |       |                        |           |  |   |                                 |

| 所収遺跡名 | 所在地  | コード   |        | 北緯    | 東経   | 調査期間                  | 調査面積<br>㎡           | 調査原因  |
|-------|--|-------|--------|-------|------|-----------------------|---------------------|---|
|       |  | 市町村   | 遺跡番号   |       |      |                       |                     |   |
| 東沢中遺跡 | 加古川市<br>八幡町<br>上西条   | 28210 | 110618 | 34°   | 134° | 確認調査                  | 確認調査                | (主)加古川<br>小野線<br>(東播磨南<br>北道路)道<br>路改築事業<br>に伴う事前<br>調査 |
|       |  |       |        | 46′   | 54′  | (2004197)             | (2004197)           |   |
|       |  |       |        | 48″   | 03″  | 2004年<br>9月13日～11月26日 | 2,263㎡<br>(2005189) |   |
|       |  |       |        |       |      | 2005年 11月15日          | 15㎡<br>(2005189)    |   |
|       |  |       |        |       |      | 本発掘調査                 | 本発掘調査               |   |
|       |  |       |        |       |      | (2005142)             | (2005142)           |   |
|       |  |       |        |       |      | 2005年                 | 601㎡<br>(20051)     |   |
|       |  |       |        |       |      | 9月14日～11月4日           | 102㎡<br>(2005209)   |   |
|       |  |       |        |       |      | 2006年                 |                     |   |
|       |  |       |        |       |      | 1月24日～3月13日           |                     |   |
| 所収遺跡名 | 種別   | 主な時代  |        | 主な遺構  |      | 主な遺物                  |                     | 特記事項  |
| 東沢中遺跡 | 集落   | 7世紀   |        | 掘立柱建物 |      | 須恵器杯・土師器甕             |                     |   |
| 要約    | 段丘開析谷に面して築かれた7世紀代の集落。長方形プランの主屋棟と正方形プランの付属屋が存在する。1棟には壁の痕跡がある。 |       |        |       |      |                       |                     |   |

---

兵庫県文化財調査報告 第 389 冊

## 東沢古墳群・東沢中遺跡

(主)加古川小野線(東播磨南北道路)道路改築事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2011年3月24日 発行

- 編集 兵庫県立考古博物館  
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1丁目1番1号  
079-437-5589
- 発行 兵庫県教育委員会  
〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号
- 印刷 株式会社 邦栄堂  
〒675-2213 兵庫県加西市西笠原町766
-

